

第 23 回

江 東 区 政 世 論 調 査

平成 29 年



スポーツと人情が熱いまち

江 東 区

東京2020大会を契機とした区政発展に向けて

江東区政世論調査は、昭和48年から隔年で実施してきており、今年で23回目となります。

江東区の人口は、平成27年6月に50万人に達し現在は51万人を超えています。区では人口増加や南部地域の開発などに伴い多様化する区民ニーズに的確に対応し、こどもから高齢者まですべての世代がいきいきと暮らせる地域社会を目指して、「江東区長期計画（後期）〔平成27年度～平成31年度〕」を策定しています。現在は、最終年度である平成31年度での目標値等達成を見据え、区政運営の着実な推進に取り組んでいるところです。

今回の調査では、社会情勢の変化などを踏まえ「江東区ブランディング戦略」「学校安全」「児童虐待」「緑化推進」を新しく調査項目として設けました。継続して行っている調査項目の結果と合わせまして、今後の区政運営や施策立案の際の貴重な基礎資料として、活用してまいります。

東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会まで、あと3年と迫りました。江東区では、全区市町村で最多となる19競技（オリンピック11競技、パラリンピック8競技）が実施されることとなります。区では、10月に1000日前イベントを行うなど、東京2020大会に向けた気運醸成に取り組んでいます。本区を訪れる国内外の多くの方々に、「江東区に来てよかった」と心から思っただけのように、オリンピック・パラリンピック開催の中心地にふさわしいまちづくりを区民の皆さんと力を合わせて進めてまいります。

最後に、本調査の実施にあたり、ご協力いただきました区民の皆様にご心から御礼を申し上げます。

平成29年12月

江東区長 山崎 孝明

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	11
III	調査結果の分析	47
1	定住性	
1-1	居住年数	51
1-2	定住・転出意向	54
2	区民交流	
2-1	新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流	61
3	男女共同参画	
3-1	夫婦間の家事の役割分担	65
4	防災対策	
4-1	震災時の不安	71
4-2	震災時の備え	76
4-3	家庭内で準備している防災用品・用具	79
4-4	防災対策への要望	82
5	ごみ・リサイクル	
5-1	ごみを減らす活動の取り組み状況	89
6	交 通	
6-1	区内の公共交通機関で不便を感じる事	97
6-2	南北を結ぶ公共交通に求めるもの	100
6-3	有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え	102
7	選 挙	
7-1	東京都議会議員選挙の投票の有無	107
7-2	「選挙公報」の閲読状況	114
8	区議会	
8-1	「こうとう区議会だより」の閲読状況	119
8-2	充実・導入してほしい議会情報の発信媒体	122
9	図書館	
9-1	区内図書館の利用頻度	127

10 江東区ブランディング戦略	
10－1 区のブランドコンセプトの認知状況	133
10－2 区に持っている印象	136
11 学校安全	
11－1 児童生徒の安全を確保するために必要なこと	141
11－2 学校の不審者対策として有効なもの	143
12 児童虐待	
12－1 身近で児童虐待があった場合の通告の有無	147
13 緑化推進	
13－1 「C I G」の認知状況	157
13－2 江東区の緑が豊かだと思いか	159
13－3 今後参加したい、または充実させて欲しいと思う緑に関する事業	163
14 広 報	
14－1 「こうとう区報」の閲読状況	167
14－2 区の仕事や行事の認知媒体	169
14－3 情報を収集するための機器について持っているもの	172
14－4 区の情報を収集するために必要なインターネット上のサービス	175
15 江東区ワイドスクエア	
15－1 区政情報や区内のイベント・施設情報を動画や映像で見たいか	181
15－2 ケーブルテレビの視聴の可否	183
15－3 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容	188
16 充実すべき施設	
16－1 充実すべき施設	193
17 施策への要望	
17－1 力を入れてほしい施策	199
IV 相関表	203
V 調査票の見本	271

I 調査の概要

1. 調査目的

江東区政の各分野について区民の意識や動向、意見や要望などを把握することにより、今後の区政運営の参考に資する。

2. 調査の内容

- | | |
|--------------|-------------------|
| (1) 定住性 | (10) 江東区ブランディング戦略 |
| (2) 区民交流 | (11) 学校安全 |
| (3) 男女共同参画 | (12) 児童虐待 |
| (4) 防災対策 | (13) 緑化推進 |
| (5) ごみ・リサイクル | (14) 広報 |
| (6) 交通 | (15) 江東区ワイドスクエア |
| (7) 選挙 | (16) 充実すべき施設 |
| (8) 区議会 | (17) 施策への要望 |
| (9) 図書館 | |

3. 調査の設計

- | | |
|--------------|--|
| (1) 調査地域 | 江東区全域 |
| (2) 調査対象 | 江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む） |
| (3) 標本数 | 1,500人 |
| (4) 調査対象者の抽出 | |
| ①母集団 | 平成29年5月15日現在の江東区住民基本台帳上の満18歳以上の男女（外国人を含む） |
| ②地点数 | 120地点（1地点12～13サンプル） |
| ③抽出法 | 層化2段無作為抽出法（層化→地点抽出→対象者抽出） |
| ④層化 | 1又は2箇所の出張所（旧出張所を含む）の所管区域を単位として7地区に層化（図1・表1参照） |
| ⑤地点数配分 | 1地点が12～13サンプルとなるように、各地区の調査対象者に応じて地点数を比例配分した（合計120地点） |
| ⑥地点抽出 | 各地区ごとの地点数に応じてインターバルを定め、等サイズブロック抽出法に従い、無作為系統的に各地点の抽出スタート点を決めて地点を抽出した。 |
| ⑦対象者抽出 | 抽出された各地点のスタート点より、1地点12票ずつのサンプルを無作為系統的に抽出した。 |
| (5) 調査期間 | 平成29年7月8日～7月23日 |
| (6) 調査機関 | 株式会社 エスピー研 |

図 1 地区区分図

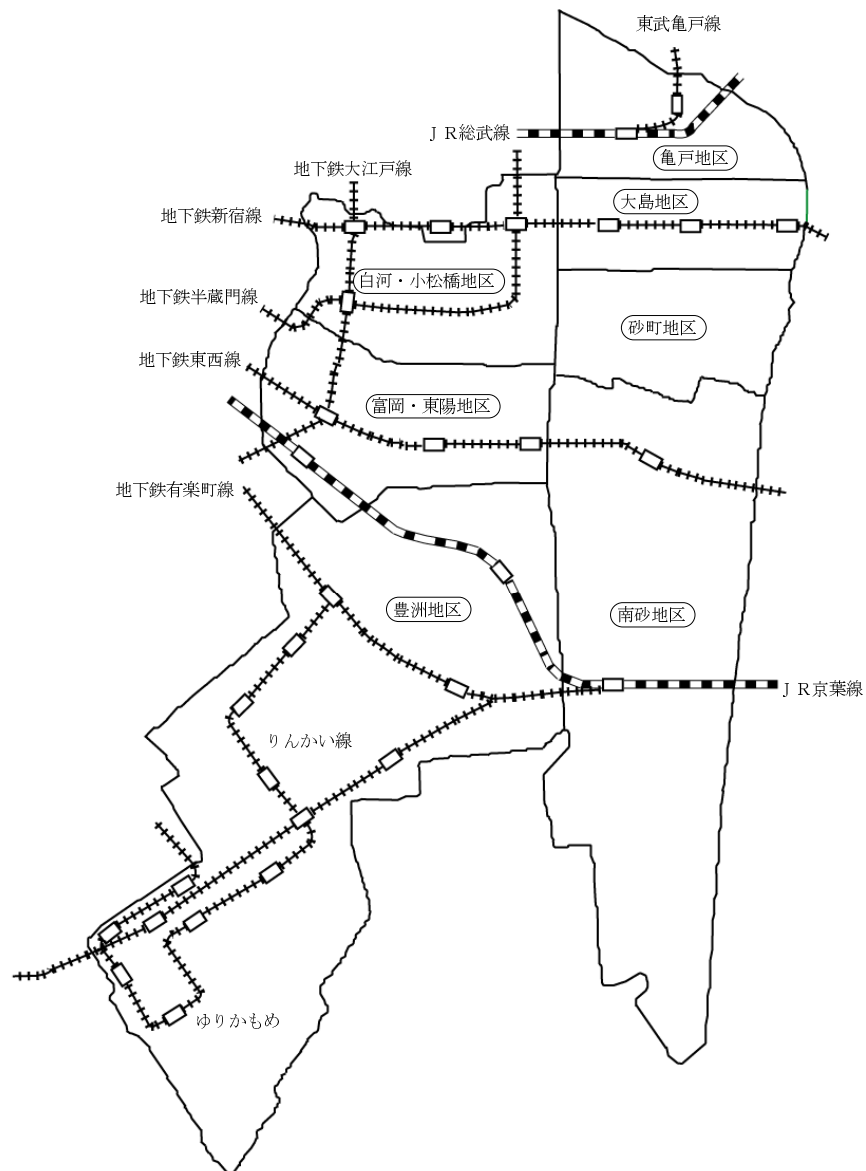


表 1 地区・町丁名対応表

地 区	該 当 町 丁 目
白河・小松橋	清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋、千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
富岡・東陽	佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島、木場、東陽、南砂2丁目1番1～5号・5～7番、新砂1丁目1番
豊 洲	塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海
亀 戸	亀戸
大 島	大島
砂 町	北砂、南砂1・5丁目、南砂2丁目24～34番、東砂1～5丁目
南 砂	東砂6～8丁目、南砂2丁目（1番1～5号・5～7番・24～34番を除く）・3・4・6・7丁目、新砂1丁目（1番を除く）・2・3丁目、夢の島、新木場、若洲

※平成 29 年 6 月 1 日現在

4. 調査方法

- (1) 実査方法 調査員による個別面接聴取法
- (2) 調査票 巻末綴じ込みの調査票を使用
- (3) 予告はがき 「江東区政世論調査のお願い」の調査訪問予告はがきをあらかじめ郵送した。
- (4) 再訪問 調査対象者が不在の場合は、日時を変えて3回以上訪問し、調査が円滑に遂行されるように心掛けた。

5. 回収結果

(1) 回収結果内訳

地 区	満 18 歳以上人口 (構成比)	標本数	有効回収数	有効回収率
区 全 体	410,633 人 (100.0%)	1,500	980	65.3%
白 河 ・ 小 松 橋	67,257 人 (16.4%)	246	154	62.6%
富 岡 ・ 東 陽	59,225 人 (14.4%)	216	122	56.5%
豊 洲	86,306 人 (20.9%)	314	224	71.3%
亀 戸	47,454 人 (11.6%)	174	125	71.8%
大 島	51,138 人 (12.5%)	187	131	70.1%
砂 町	63,150 人 (15.4%)	231	129	55.8%
南 砂	36,103 人 (8.8%)	132	95	72.0%

(2) 回収不能数 520 票 回収不能率 34.7%

(3) 回収不能内訳

回収不能項目	件数	構成比
拒 否	129	24.8%
長 期 不 在	17	3.3%
短 期 不 在	320	61.5%
転 居 ・ 転 出	36	6.9%
住 所 不 明	3	0.6%
病 気 ・ 入 院 ・ 死 亡	12	2.3%
そ の 他	3	0.6%

6. 摘要と標本誤差

- (1) すべての集計表は、小数点第2位を四捨五入した。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基礎(n)として算出した。したがって、複数の回答の設問のすべての比率は合計すると100%にならないことがある。
- (3) 標本誤差(サンプル誤差)はおよそ下表のとおりである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基礎(n)、及び②回答比率(P)によって異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団数

n=比率算出の基礎(サンプル数)

p=回答の比率

回答の比率(p) 基礎(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
980	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
800	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
600	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
200	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	±10.0%
100	± 8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

(注) 1. 表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出した。

2. 層化を行った場合、誤差は上表よりやや小さくなる。

3. この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が980人であり、その設問中の選択肢の回答比率が70%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも4.1%である。」

7. 集計・分析にあたって

- (1) 集計は、①単純集計、②フェイスシートとのクロス集計、③設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (2) フェイスシート7項目およびそれに準ずる設問として2項目を採用した。
- ①地区別
 - ②性別(F1)
 - ③性/年齢別(F1×F2)
 - ④職業別(F3)
 - ⑤家族人数別(F4)
 - ⑥ライフステージ別(F5)
 - ⑦住居形態別(F6)
 - ⑧居住年数別(問1)
 - ⑨定住・転出意向別(問2)

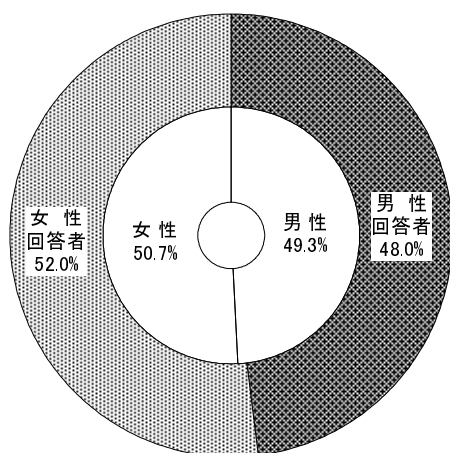
- (3) 巻末相関表には、(2)の9項目を基本分類軸として掲載した。また、巻末相関表および本編中のクロス集計結果のグラフや表の分類軸は、無回答を省いたものを掲載している。
- (4) 分析に使用したパーセント表示は、全体については小数点第2位を四捨五入して小数点第1位を算出したものを使用した。また、クロス集計によるグラフ上で比率の少ないものは省略した場合もある。したがって、同一項目で小数点第1位と小数点第2位の四捨五入で数値が異なる場合や、回答比率の合計が100%にならないものがある。
- (5) 表中の数字で「ー」(バー)はその項目に該当する回答がまったくないものを示す。
- (6) 回答者数が10に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特にとりあげていない。
- (7) ライフステージの名称及び内容は以下のとおりである。
- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 独身期 | 40歳未満の独身者 |
| 家族形成期 | 40歳未満のこどもがいない夫婦、または一番上のこどもが小学校入学前の人 |
| 家族成長前期 | 一番上のこどもが小・中学生の人 |
| 家族成長後期 | 一番上のこどもが高校・大学生の人 |
| 家族成熟期 | 64歳以下で一番上のこどもが学校を卒業している人 |
| 老齢期 | 65歳以上の人 |
- (8) 「調査結果の分析」の分析軸で、職業別の内容は以下のとおりである。
- | | |
|------|--|
| 有職男性 | 男性で職業が「自営業・事業主」、「自由業」、「管理職」、「事務職・技術職」、「労務職・サービス職」、「パート・アルバイト」のいずれかに該当する人 |
| 有職女性 | 女性で職業が「自営業・事業主」、「自由業」、「管理職」、「事務職・技術職」、「労務職・サービス職」、「パート・アルバイト」のいずれかに該当する人 |
| 専業主婦 | 職業が「専業主婦」に該当する人 |
| 学生 | 職業が「学生」に該当する人 |
| 無職 | 職業が「無職」に該当する人 |

8. サンプル（調査回答者）特性

今回の回答者の特性は、下記のとおりである。なお、母集団とは住民基本台帳上の満 18 歳以上の男女全員である。

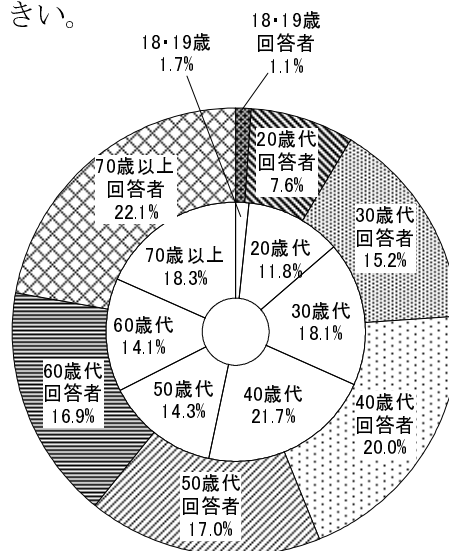
（１）性別

◎母集団、回答者ともに女性の方が多い。



（２）年齢

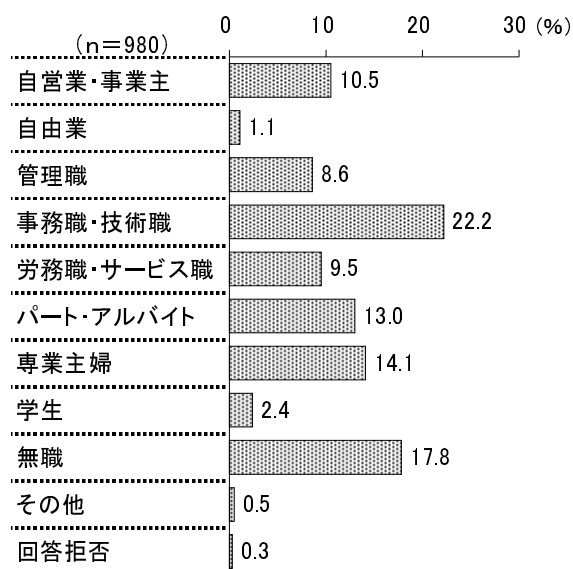
◎母集団の割合に比べて 40 歳代以下の年代が小さく、50 歳代以上の年代が大きい。



（注）内円は母集団（江東区在住の満 18 歳以上の区民）の構成比、外円は調査回答者の構成比を示している。

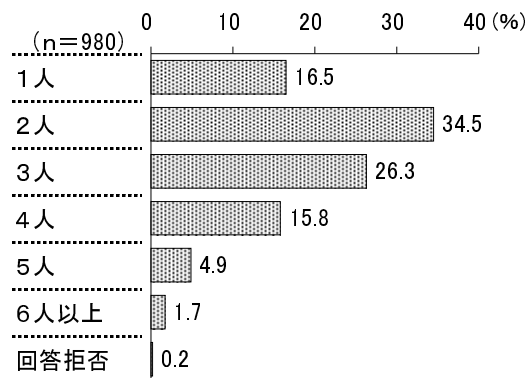
（３）職業

◎事務職・技術職が多く、次いで無職が多い。



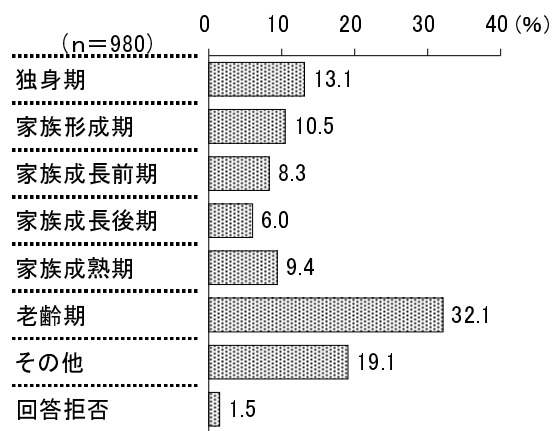
（４）家族人数

◎ 2 人家族が 3 割台半ばとなっている。



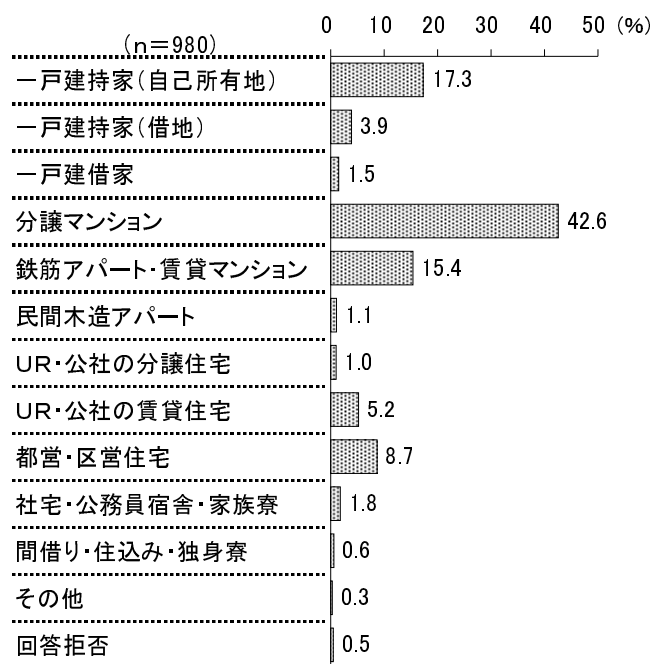
(5) ライフステージ

◎老齢期が3割を超えている。



(6) 住居形態

◎分譲マンションが最も多く、次いで一戸建持家（自己所有地）が多い。

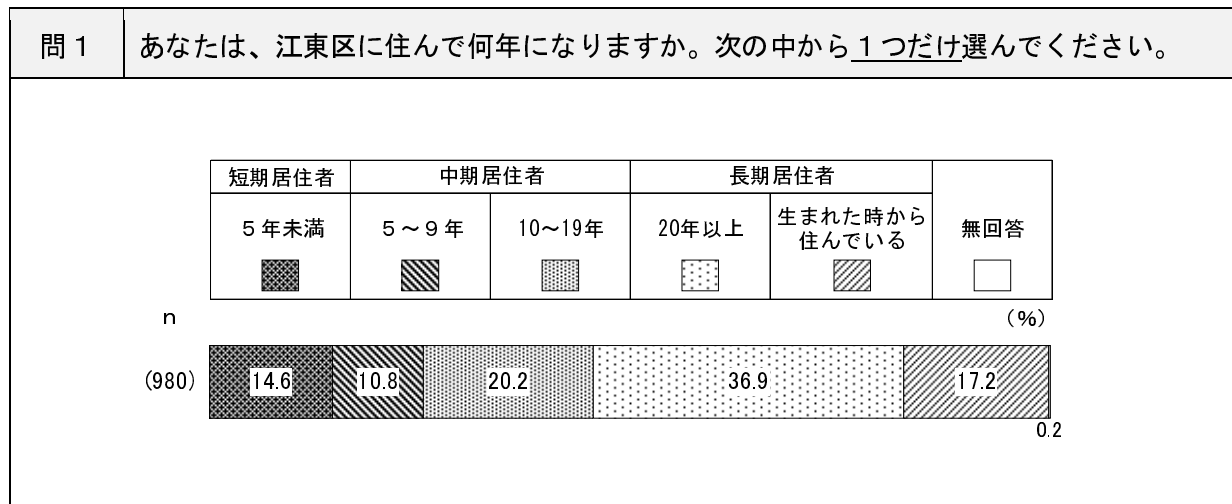


Ⅱ 調査結果の概要

1 定住性

(1) 居住年数

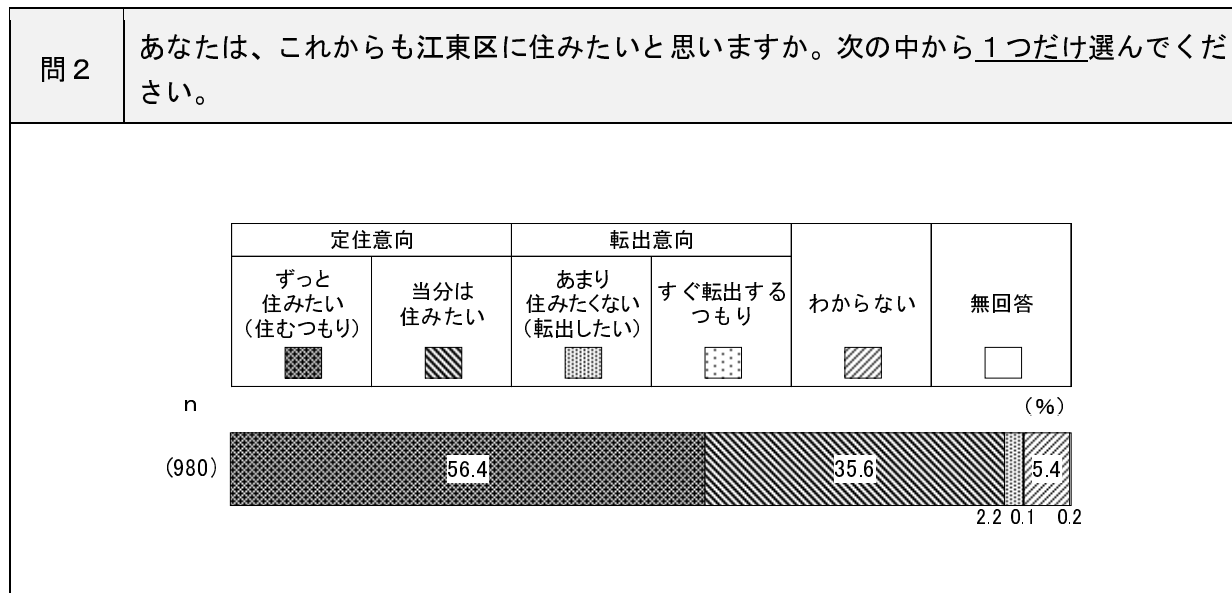
◇《長期居住者》は5割台半ば



○居住年数については、「20 年以上」(36.9%)と「生まれた時から住んでいる」(17.2%)の2つを合わせた《長期居住者》(54.1%)が5割台半ばとなっている。

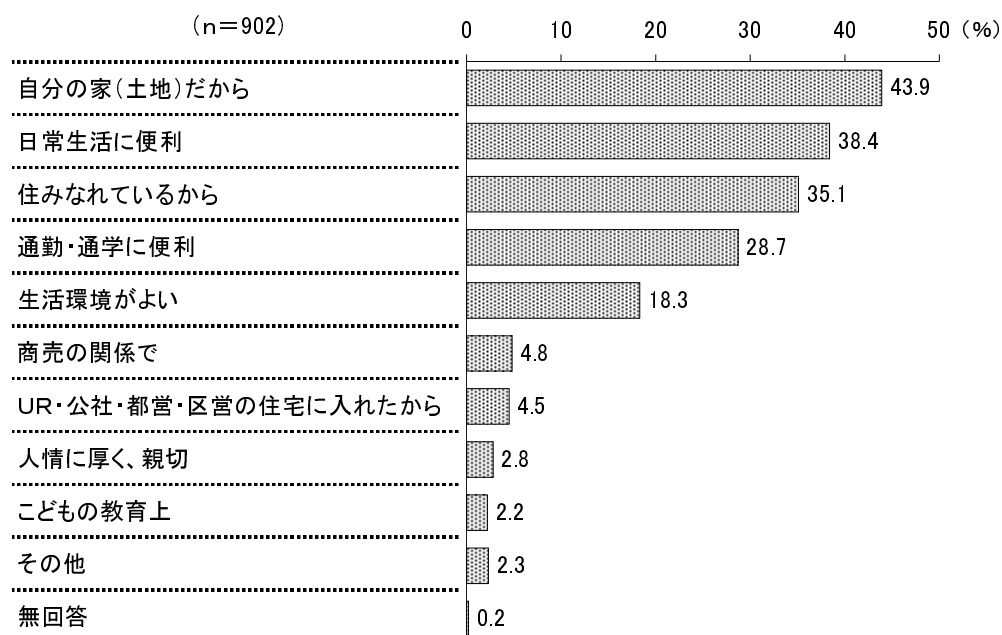
(2) 定住・転出意向

◇《定住意向》は9割を超える



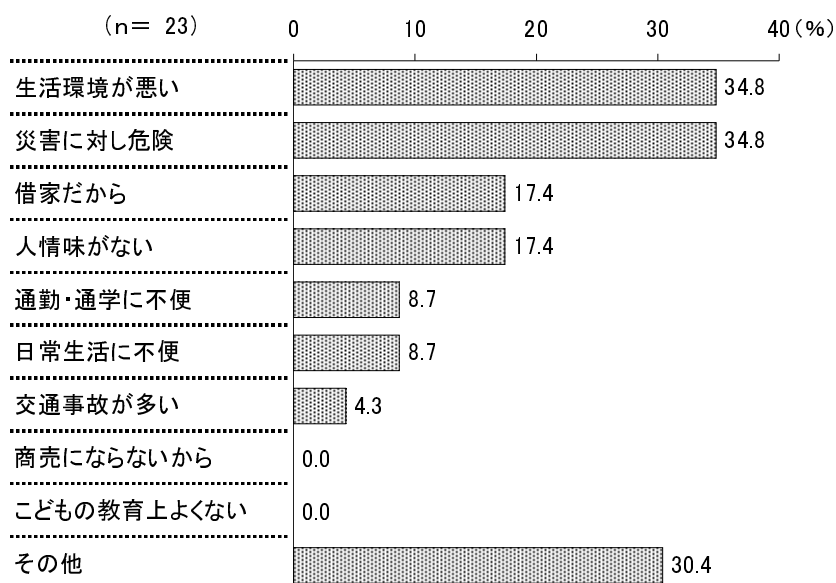
○定住・転出意向については、「ずっと住みたい(住むつもり)」(56.4%)と「当分は住みたい」(35.6%)の2つを合わせた《定住意向》(92.0%)は9割を超えている。

定住意向理由（複数回答）※2つ以内で回答



○定住意向理由については、「自分の家（土地）だから」（43.9%）が4割を超えて最も多く、次いで「日常生活に便利」（38.4%）、「住みなれているから」（35.1%）と続いている。

転出意向理由（複数回答）※2つ以内で回答

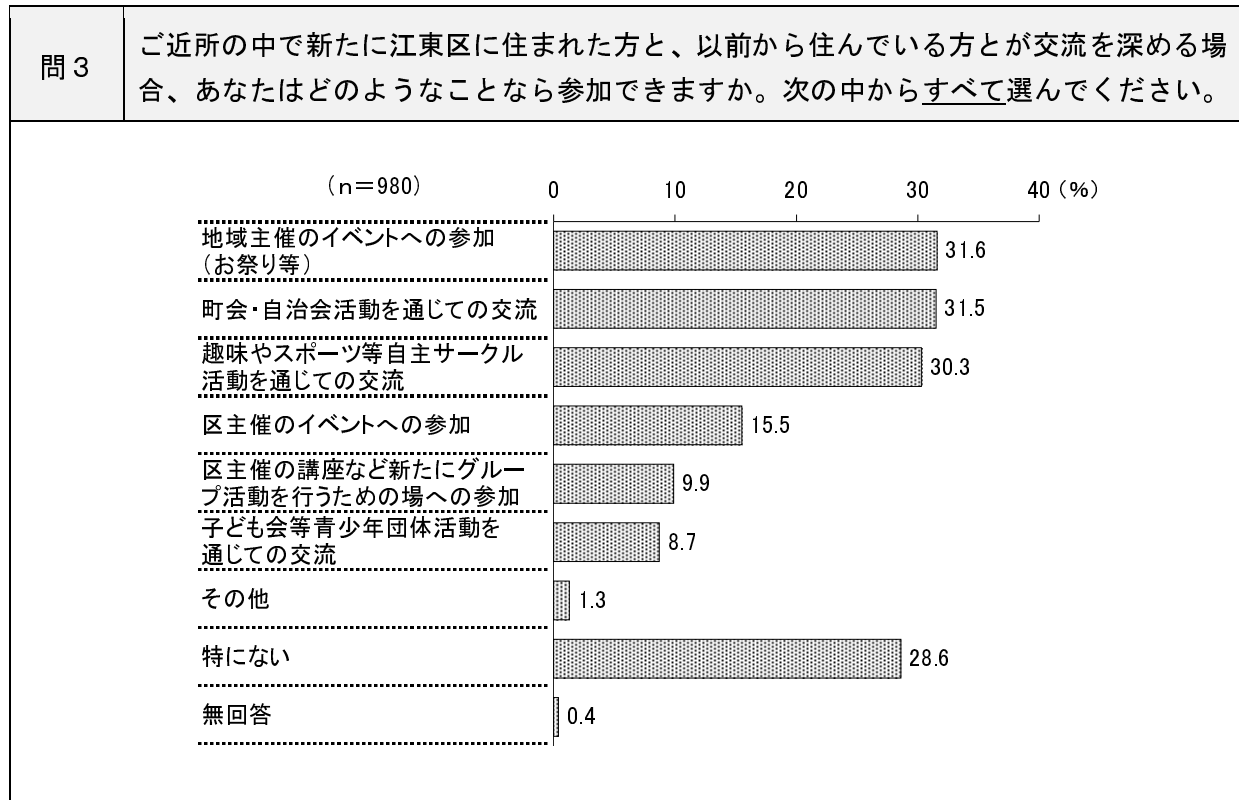


○転出意向理由としては、「生活環境が悪い」と「災害に対し危険」（ともに34.8%）が3割台半ばで最も多く、次いで「借家だから」と「人情味がない」（ともに17.4%）が続いている。

2 区民交流

(1) 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流

◇「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」と「町会・自治会活動を通じての交流」が3割を超える

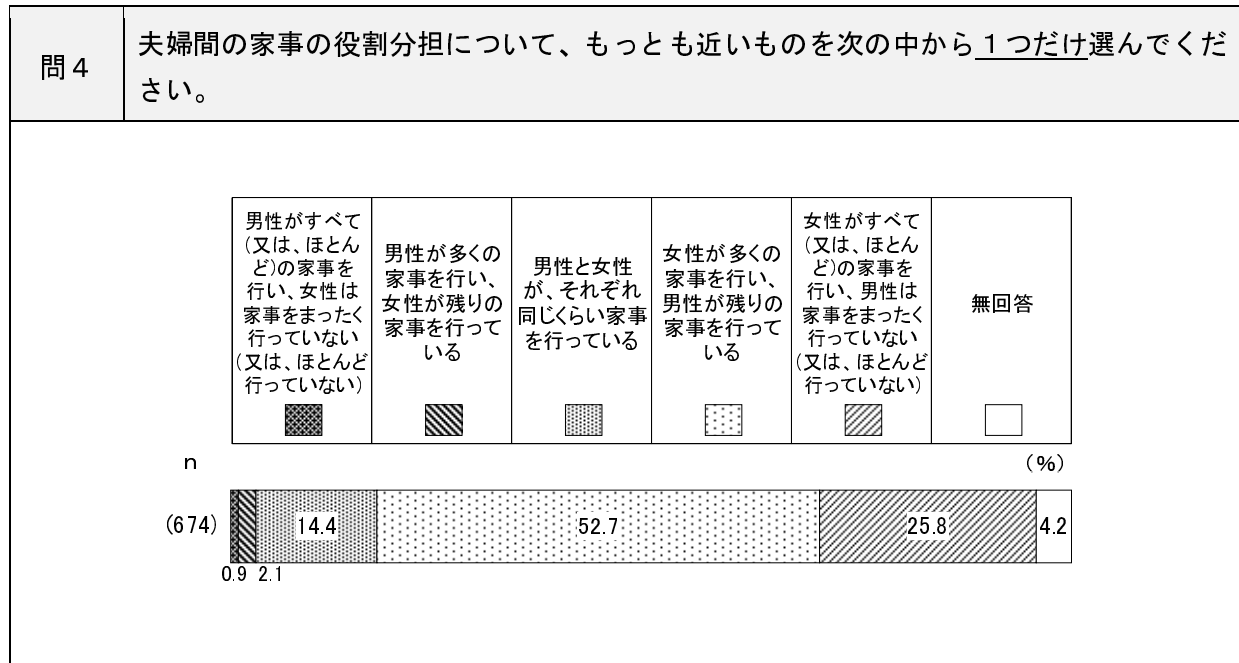


○新たに江東区に住んだ区民と、以前から江東区に住んでいる区民が交流を深めるために参加できることは何か聞いたところ、「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」（31.6%）と「町会・自治会活動を通じての交流」（31.5%）が3割を超えて多く、次いで「趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流」（30.3%）と続いている。

3 男女共同参画

(1) 夫婦間の家事の役割分担

◇「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」が5割を超える

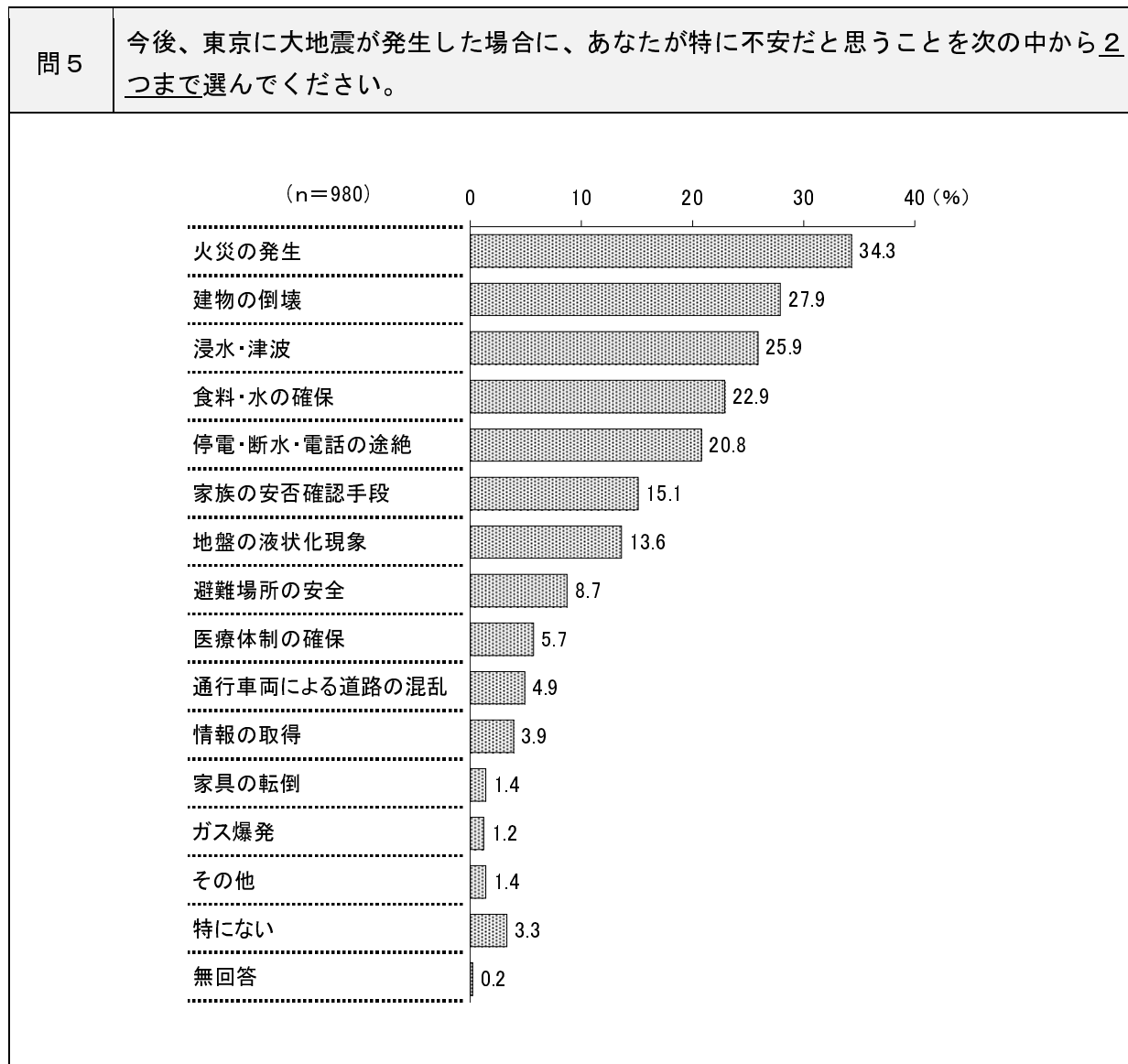


○夫婦間の家事の役割分担について聞いたところ、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」(52.7%)が5割を超えて最も多く、次いで「女性がすべて(又は、ほとんど)の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない(又は、ほとんど行っていない)」(25.8%)、「男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている」(14.4%)と続いている。

4 防災対策

(1) 震災時の不安

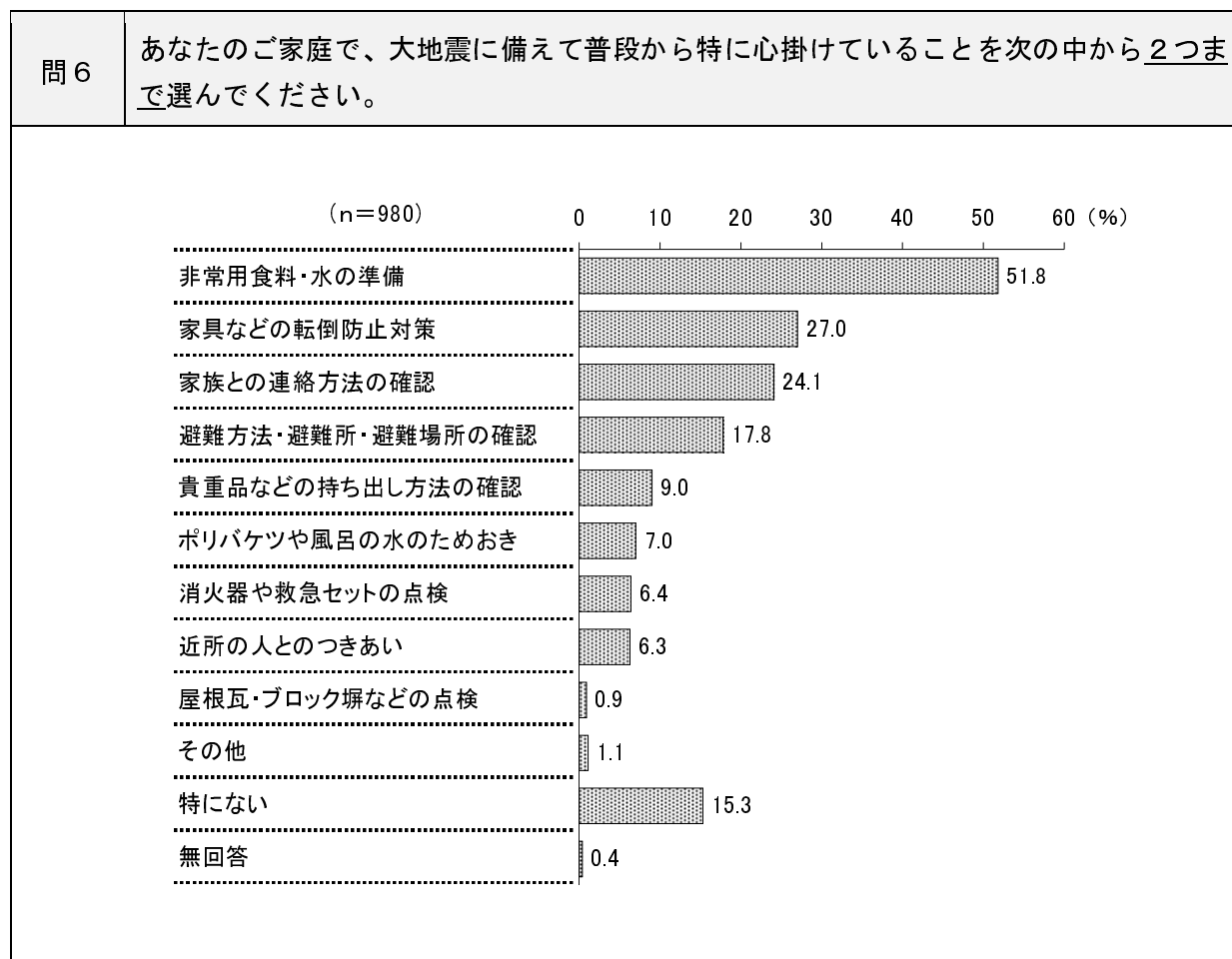
◇「火災の発生」が3割台半ば



○大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「火災の発生」(34.3%)が3割台半ばで最も多く、次いで「建物の倒壊」(27.9%)、「浸水・津波」(25.9%)、「食料・水の確保」(22.9%)と続いている。

(2) 震災時の備え

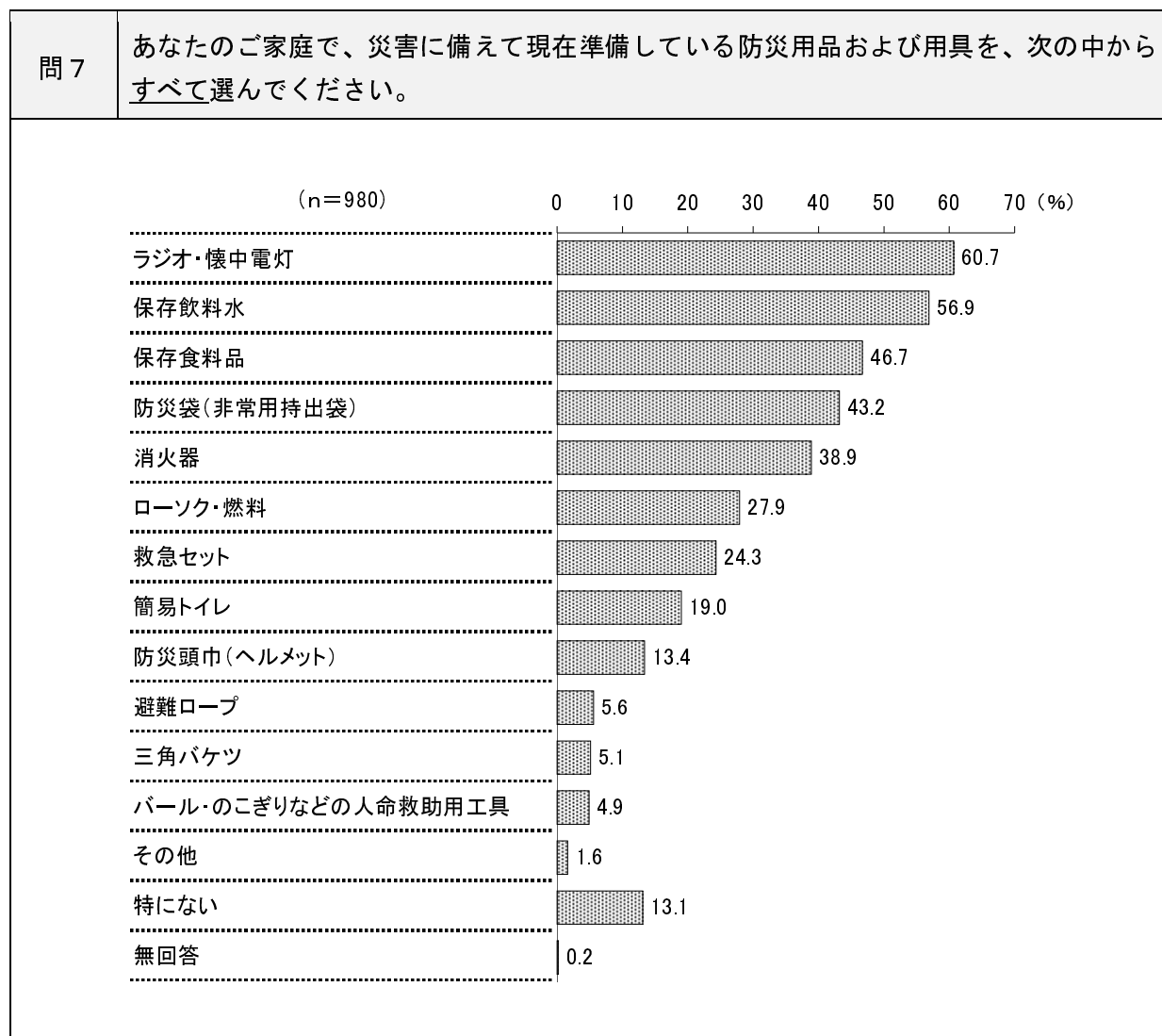
◇「非常用食料・水の準備」が5割を超える



○大地震に備えて家庭で普段から特に心掛けていることは何か聞いたところ、「非常用食料・水の準備」(51.8%)が5割を超えて最も多く、次いで「家具などの転倒防止対策」(27.0%)、「家族との連絡方法の確認」(24.1%)と続いている。

(3) 家庭内で準備している防災用品・用具

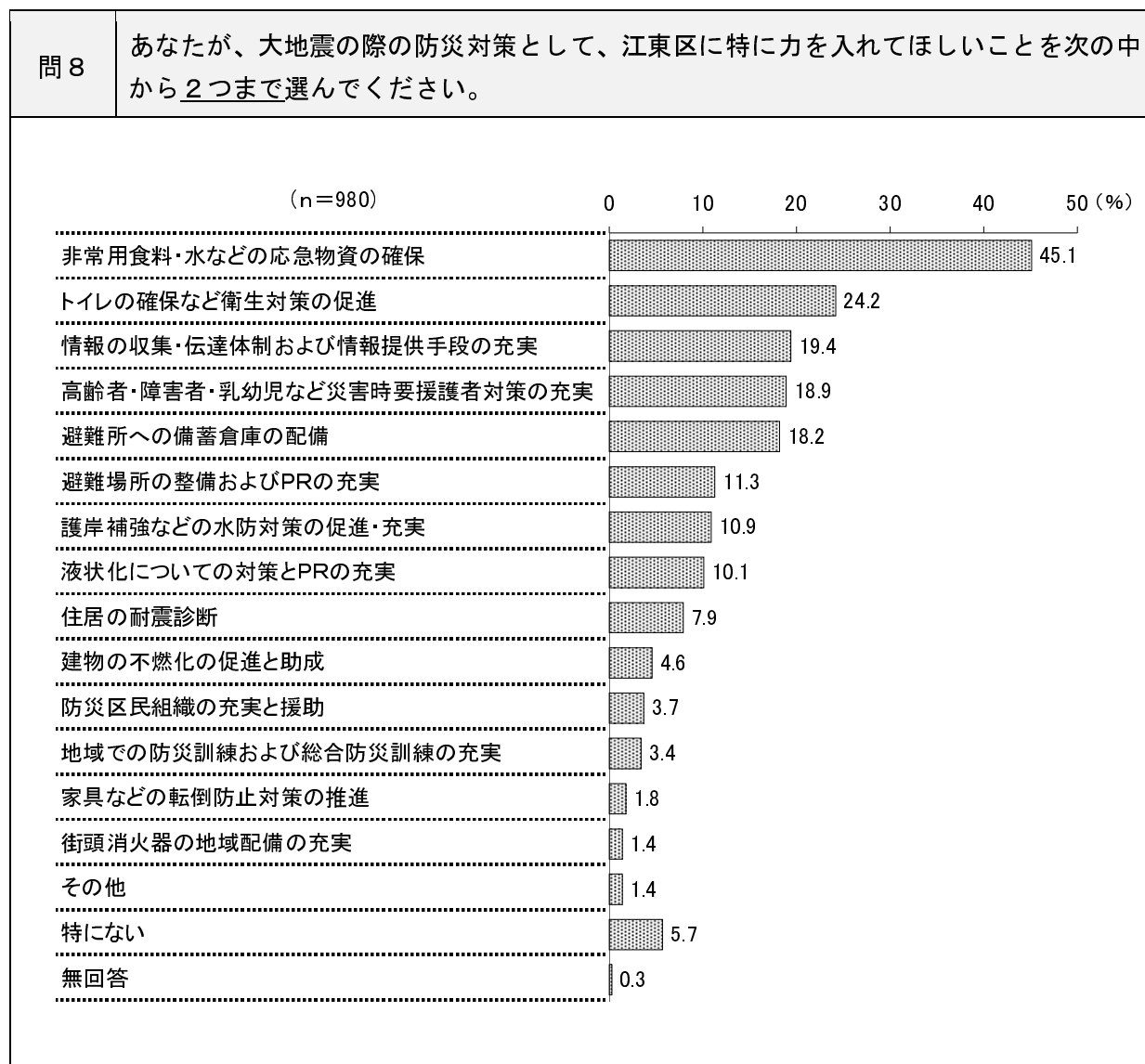
◇「ラジオ・懐中電灯」がほぼ6割



○災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「ラジオ・懐中電灯」(60.7%) がほぼ6割で最も多く、次いで「保存飲料水」(56.9%)、「保存食料品」(46.7%)、「防災袋(非常用持出袋)」(43.2%) と続いている。

(4) 防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」が4割台半ば

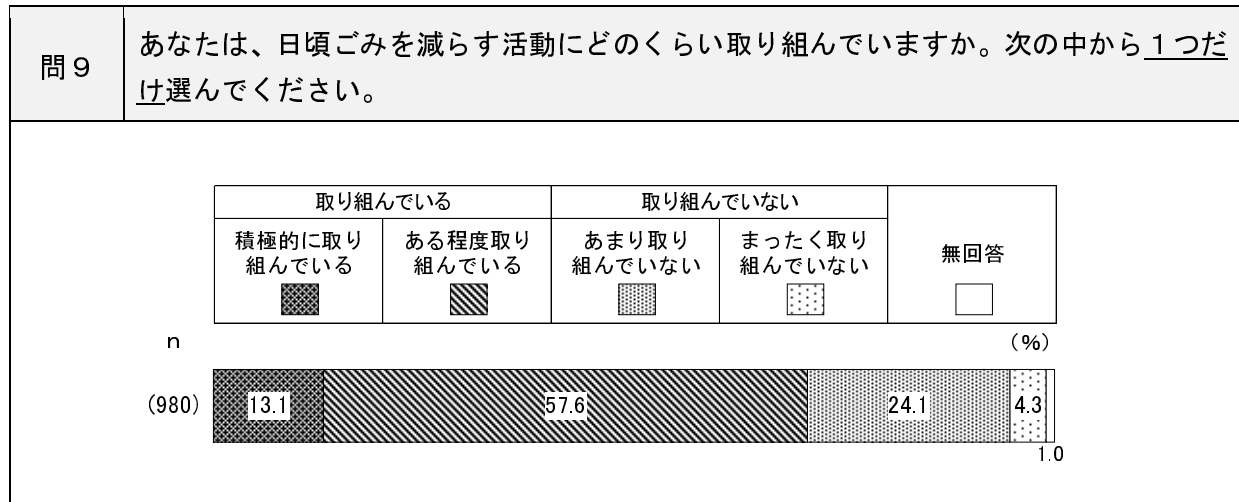


○大地震の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(45.1%)が4割台半ばで最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(24.2%)と続いている。

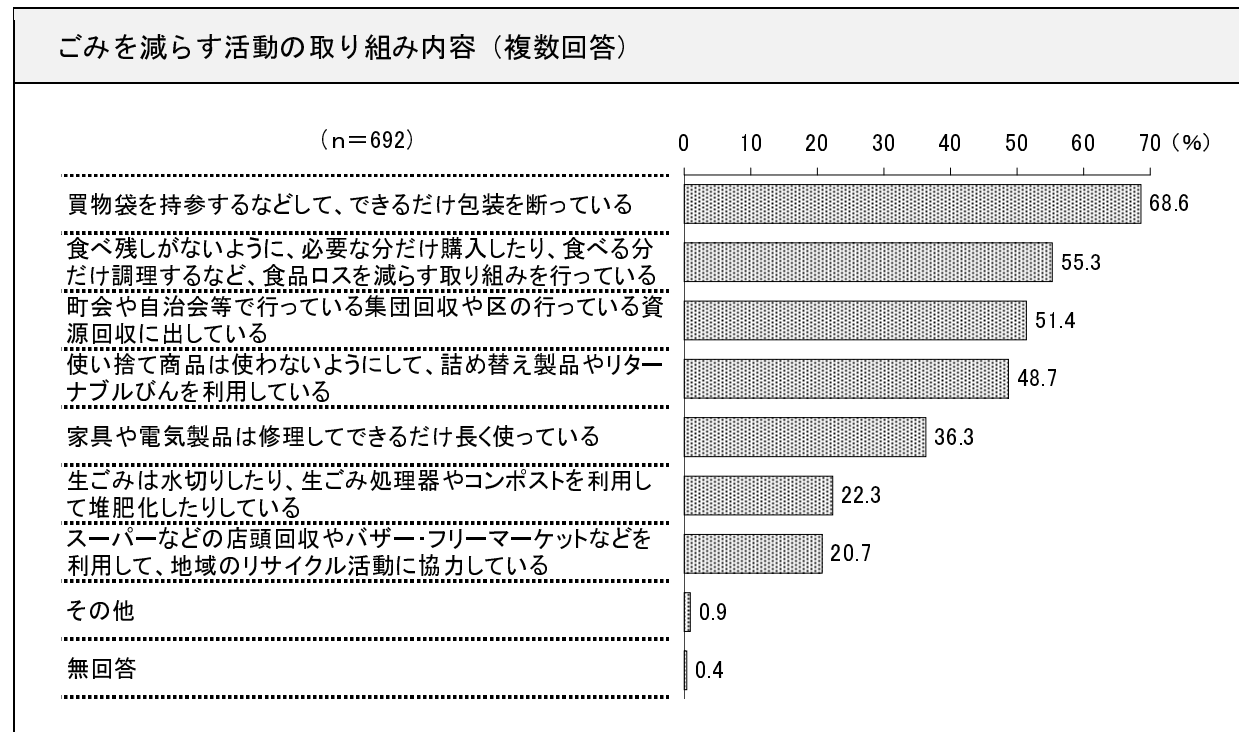
5 ごみ・リサイクル

(1) ごみを減らす活動の取り組み状況

◇《取り組んでいる》はほぼ7割



○日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいるか聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(13.1%)と「ある程度取り組んでいる」(57.6%)の2つを合わせた《取り組んでいる》(70.7%)はほぼ7割となっている。

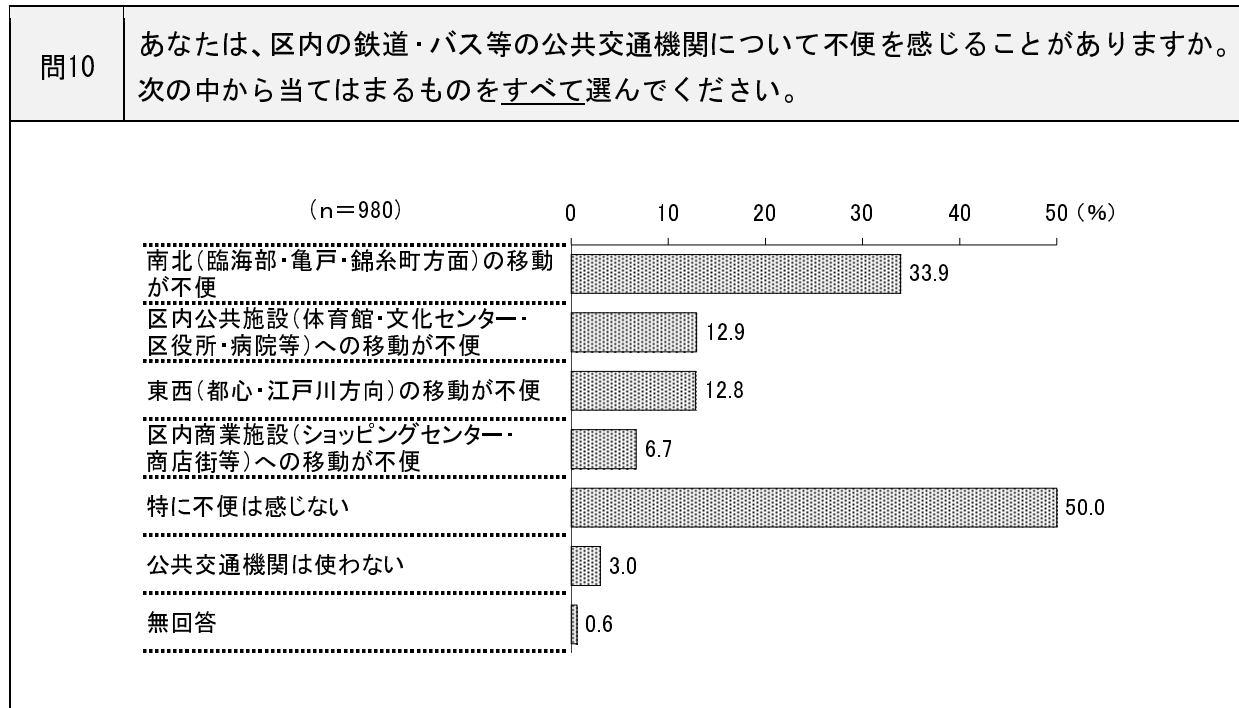


○ごみを減らす活動の取り組み内容を聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(68.6%)が7割近くで最も多く、次いで「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(55.3%)と続いている。

6 交通

(1) 区内の公共交通機関で不便を感じることに

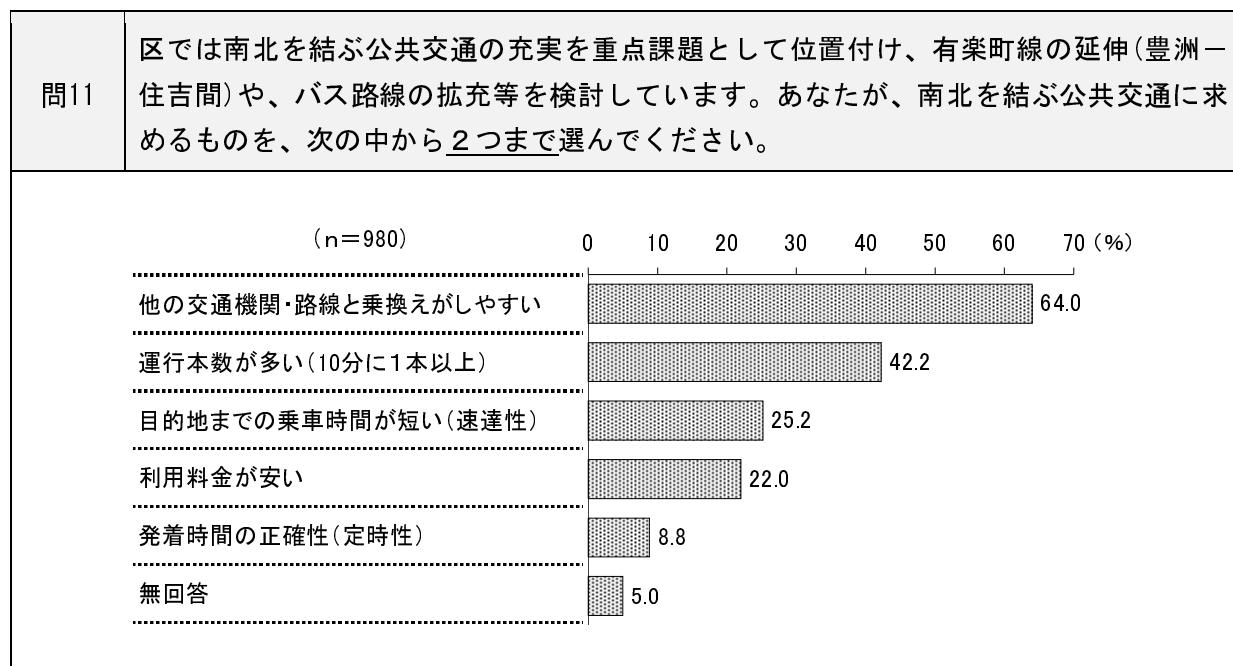
◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動が不便」が3割を超える



○区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便を感じることを聞いたところ、不便を感じる中では、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動が不便」（33.9%）が3割を超えて最も多く、次いで「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動が不便」（12.9%）、「東西（都心・江戸川方向）の移動が不便」（12.8%）と続いている。一方、「特に不便は感じない」（50.0%）は5割となっている。

(2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

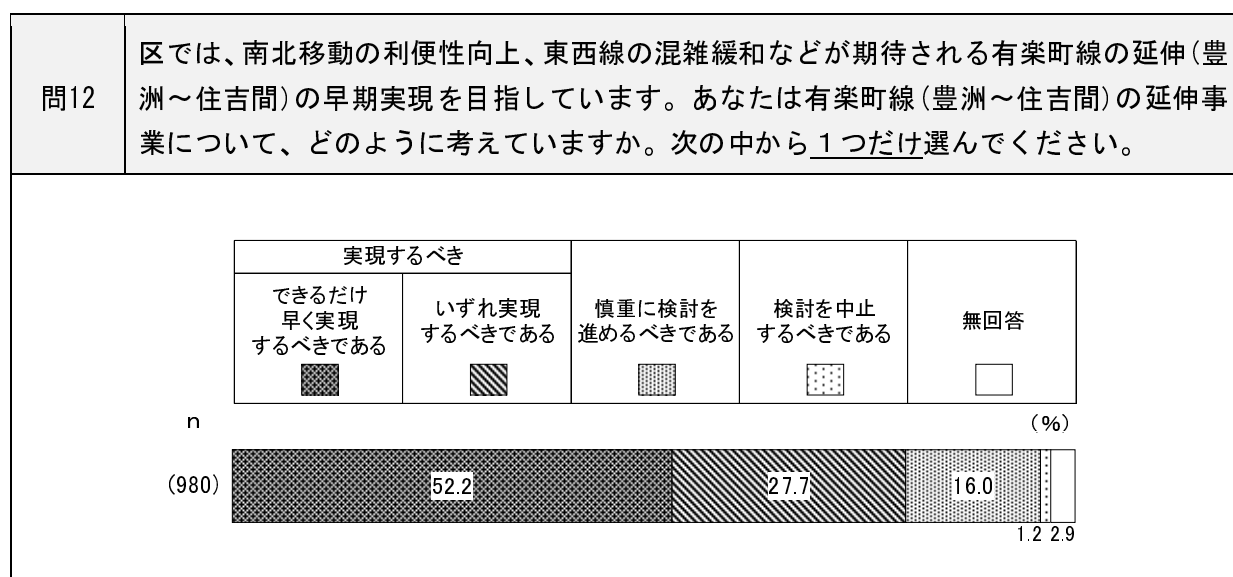
◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が6割台半ば



○南北を結ぶ公共交通に求めるものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(64.0%)が6割台半ばで最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(42.2%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(25.2%)と続いている。

(3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

◇《実現すべき》は8割

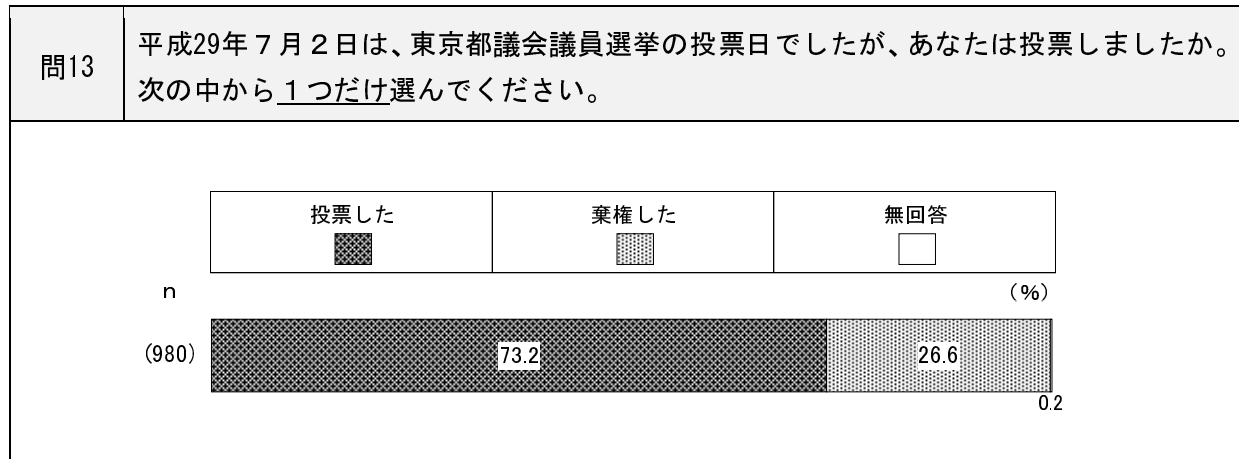


○有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えを聞いたところ、「できるだけ早く実現すべきである」(52.2%)と「いずれ実現すべきである」(27.7%)の2つを合わせた《実現すべき》(79.9%)が8割となっている。

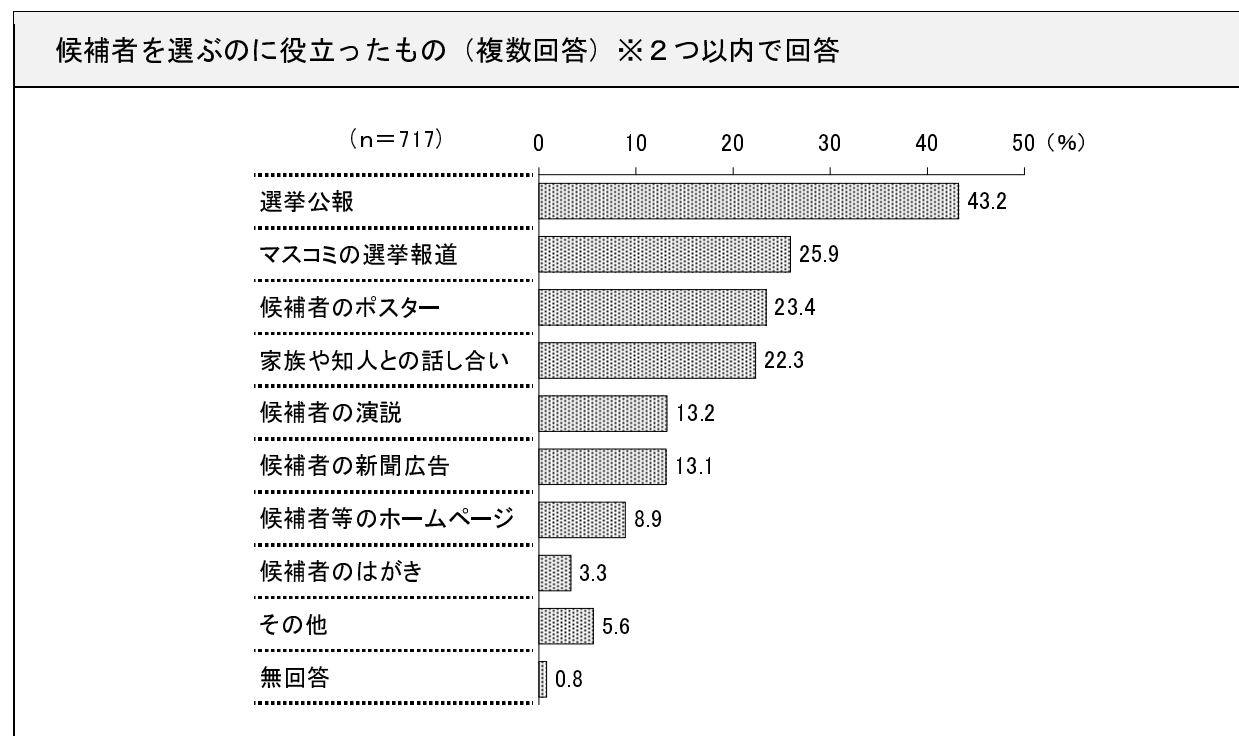
7 選挙

(1) 東京都議会議員選挙の投票の有無

◇「投票した」が7割を超える

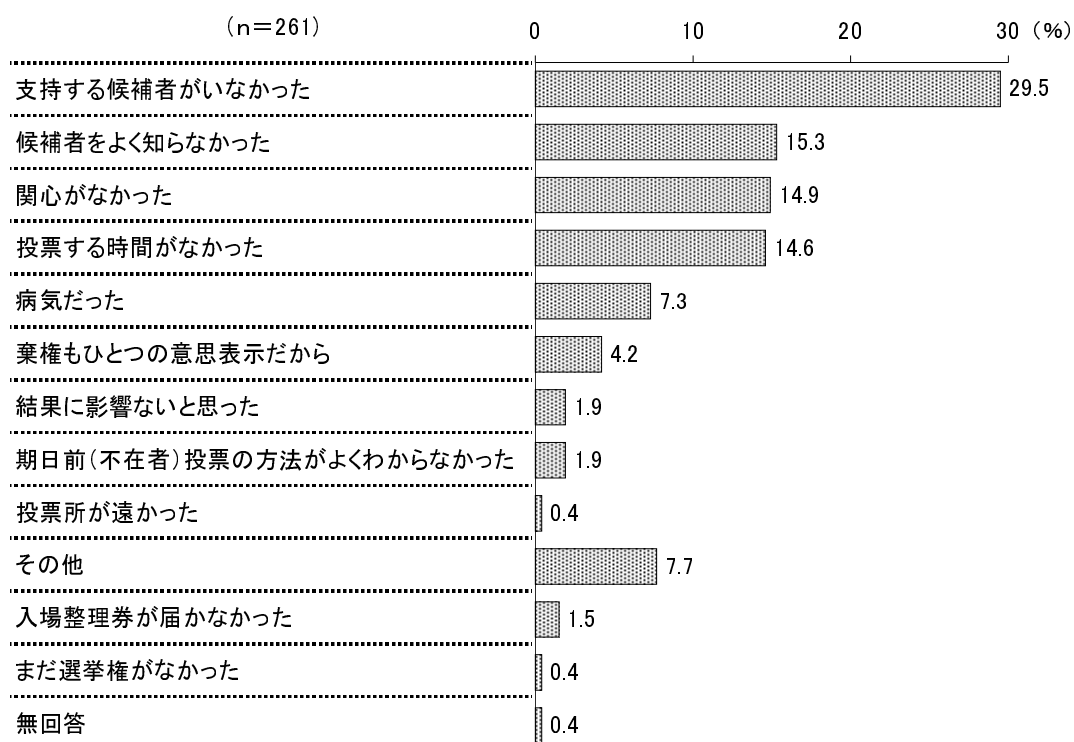


○平成 29 年 7 月に行われた東京都議会議員選挙に投票したか聞いたところ、「投票した」(73.2%) は7割を超えている。なお、実際の東京都議会議員選挙の投票率は 54.56%であった。



○平成 29 年 7 月に行われた東京都議会議員選挙に「投票した」と答えた方(717人)に、候補者を選ぶのに役立ったものは何か聞いたところ、「選挙公報」(43.2%) が4割を超えて最も多く、次いで「マスコミの選挙報道」(25.9%)、「候補者のポスター」(23.4%)、「家族や知人との話し合い」(22.3%) と続いている。

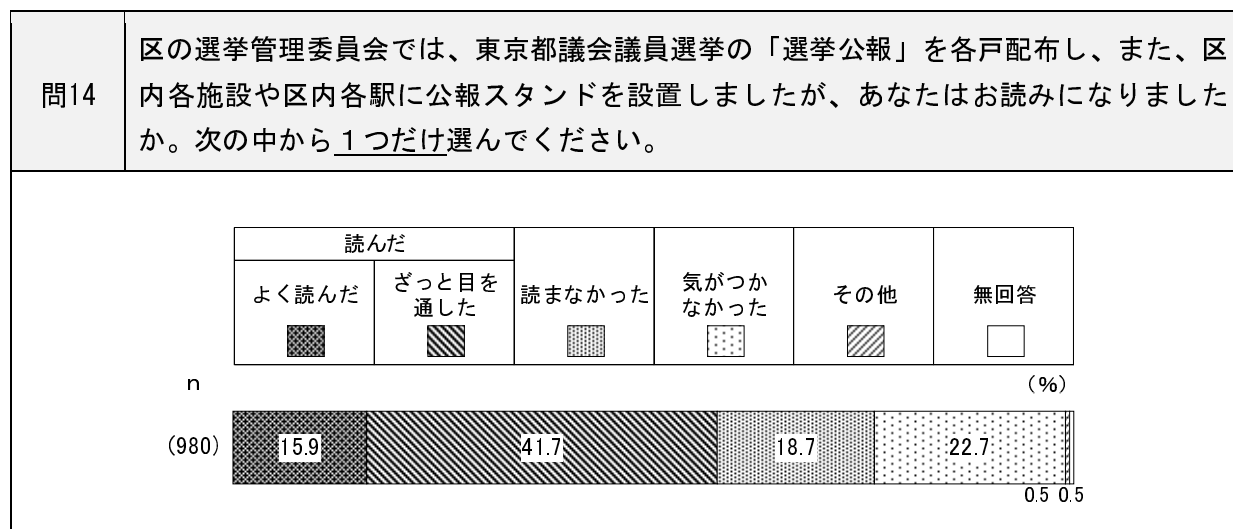
棄権理由



○平成 29 年 7 月に行われた東京都議会議員選挙に「棄権した」と答えた方（261 人）に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」（29.5%）が 3 割で最も多く、次いで「候補者をよく知らなかった」（15.3%）、「関心がなかった」（14.9%）、「投票する時間がなかった」（14.6%）と続いている。

(2) 「選挙公報」の閲読状況

◇《読んだ》は6割近く

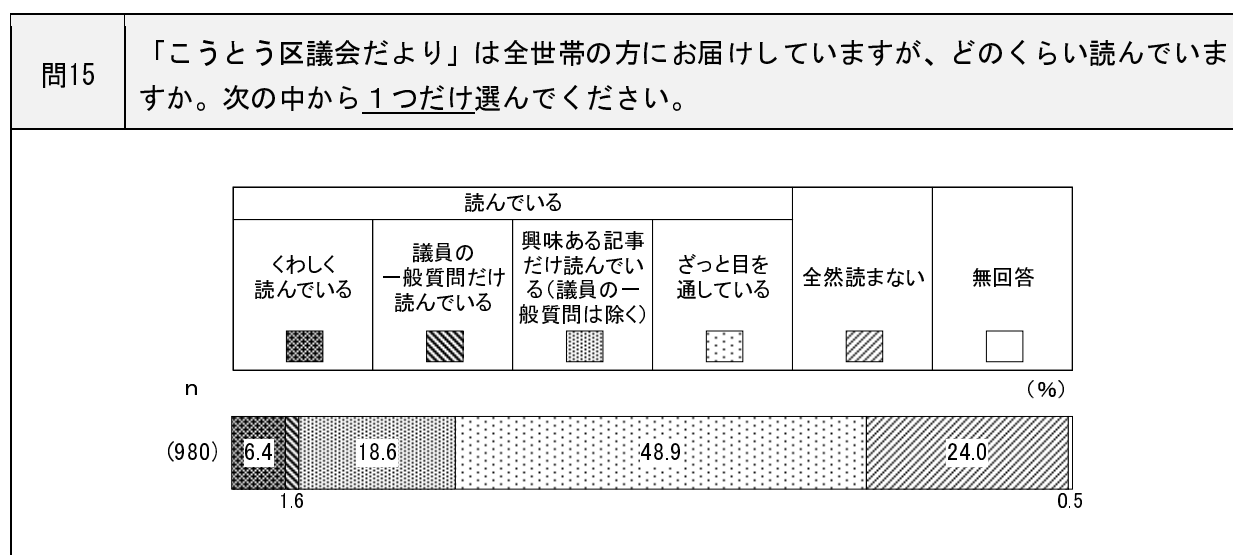


○東京都議会議員選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(15.9%)と「ざっと目を通した」(41.7%)の2つを合わせた《読んだ》(57.6%)は6割近くとなっている。一方、「読まなかった」(18.7%)は2割近く、「気がつかなかった」(22.7%)は2割を超えている。

8 区議会

(1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況

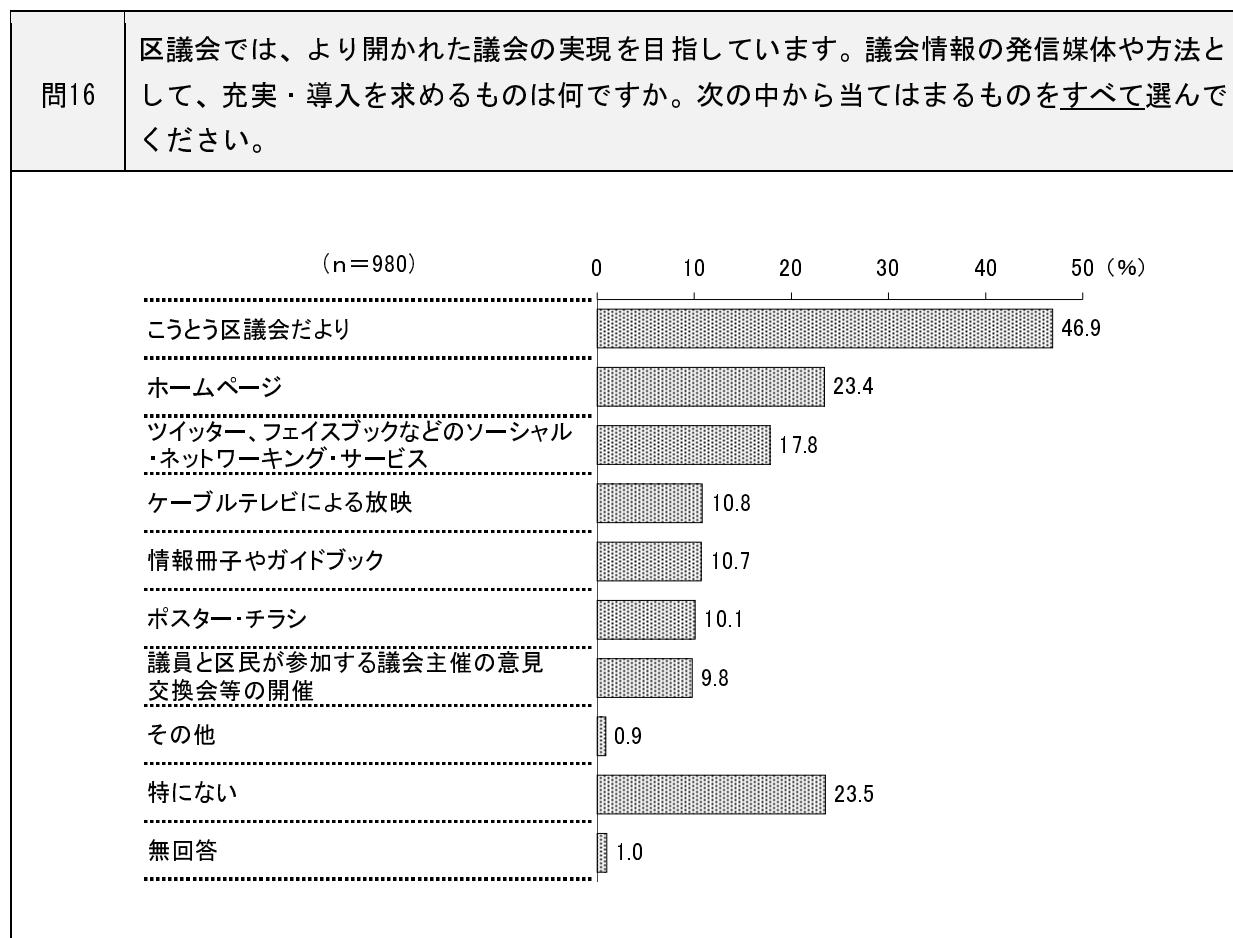
◇《読んでいる》は7割台半ば



○「こうとう区議会だより」をどのくらい読んでいるか聞いたところ、「くわしく読んでいる」(6.4%)、「議員の一般質問だけ読んでいる」(1.6%)、「興味ある記事だけ読んでいる(議員の一般質問は除く)」(18.6%)、「ざっと目を通している」(48.9%)の4つを合わせた《読んでいる》(75.5%)が7割台半ばとなっている。

(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体

◇「こうとう区議会だより」が5割近く

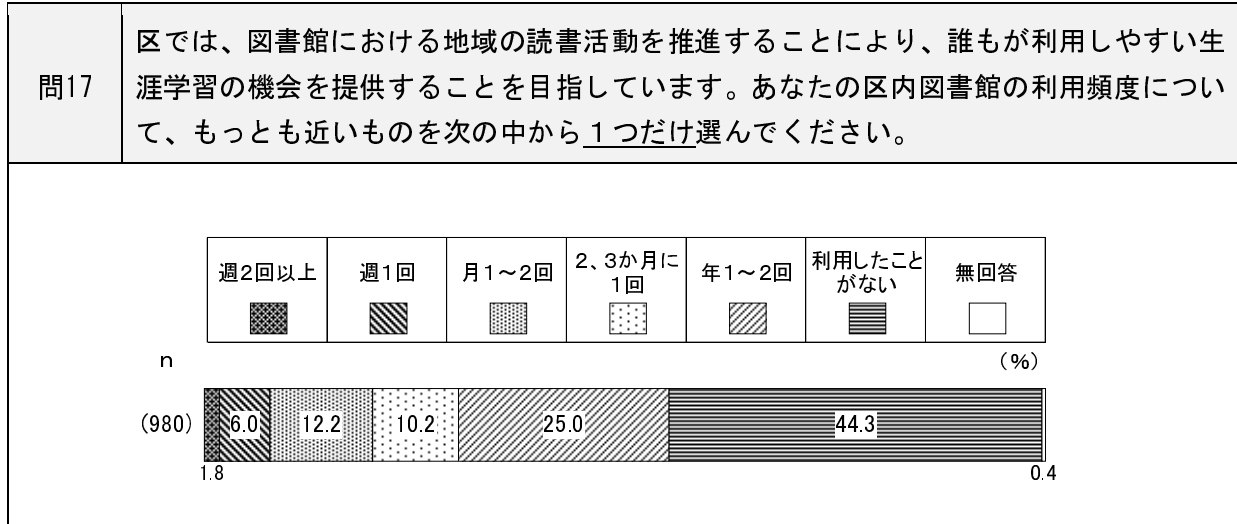


○充実・導入してほしい議会情報の発信媒体を聞いたところ、「こうとう区議会だより」(46.9%)が5割近くで最も多く、次いで「ホームページ」(23.4%)、「ツイッター、フェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス」(17.8%)、「ケーブルテレビによる放映」(10.8%)と続いている。

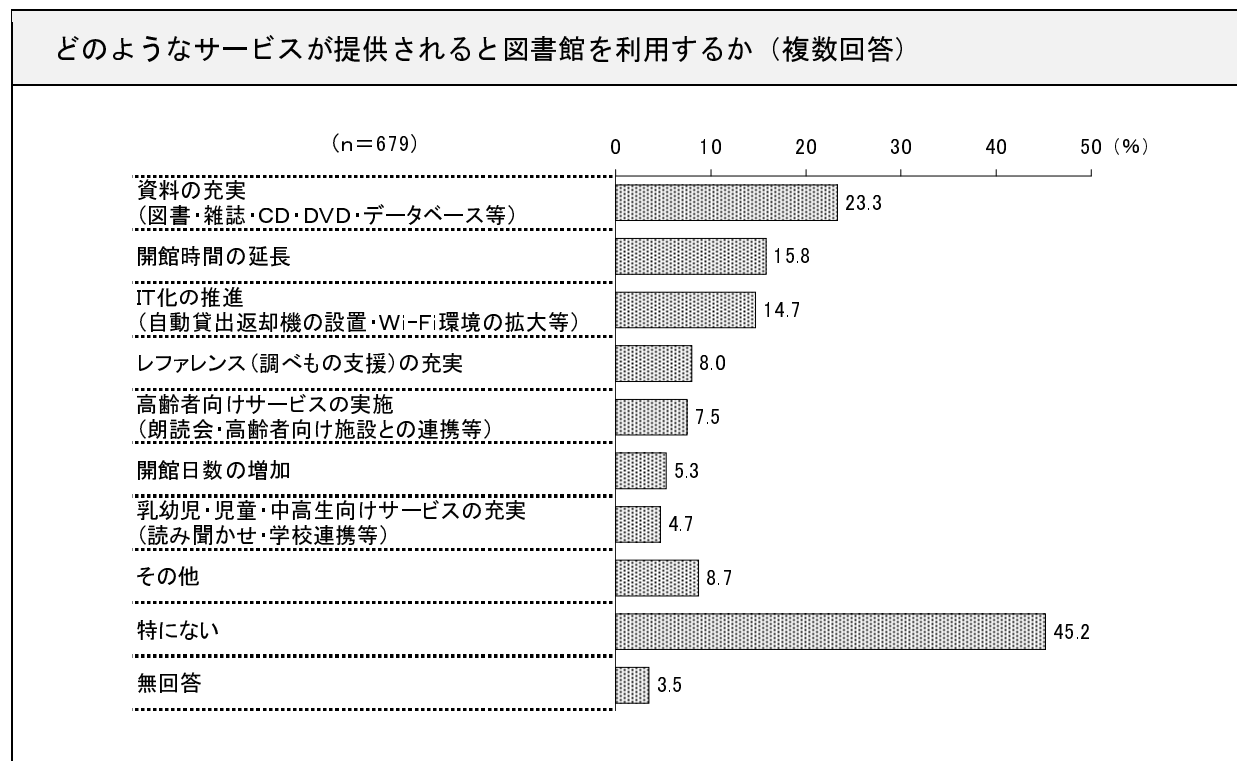
9 図書館

(1) 区内図書館の利用頻度

◇「年1～2回」が2割台半ば



○区内図書館の利用頻度を聞いたところ、「年1～2回」(25.0%)が2割台半ばとなっている。一方、「利用したことがない」(44.3%)は4割台半ばとなっている。

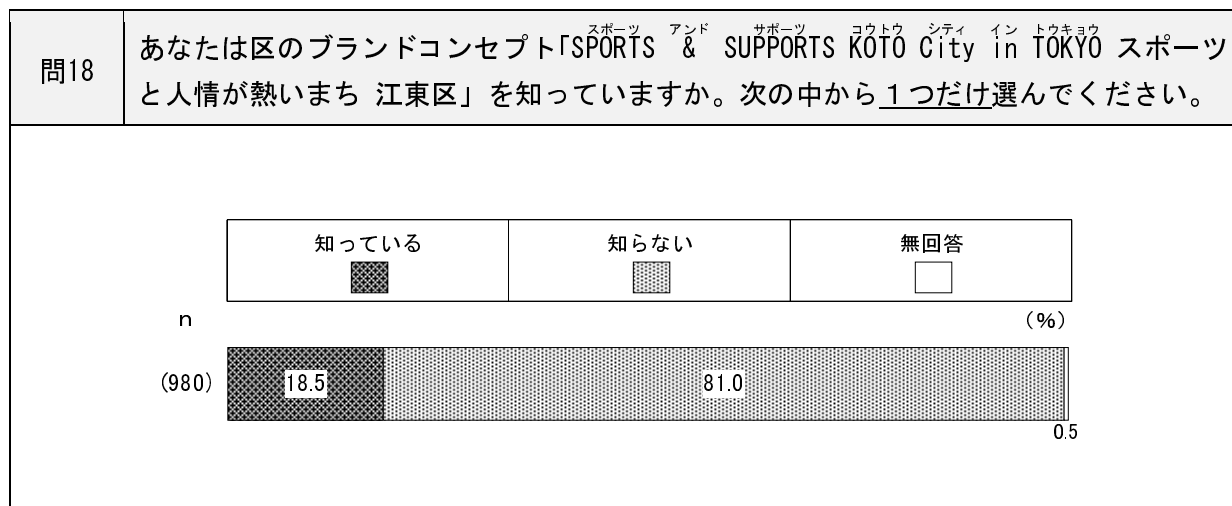


○区内図書館の利用頻度を、「年1～2回」か「利用したことがない」と答えた方(679人)に、どのようなサービスが提供されると図書館を利用するか聞いたところ、「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベース等)」(23.3%)が2割を超えている。

10 江東区ブランディング戦略

(1) 区のブランドコンセプトの認知状況

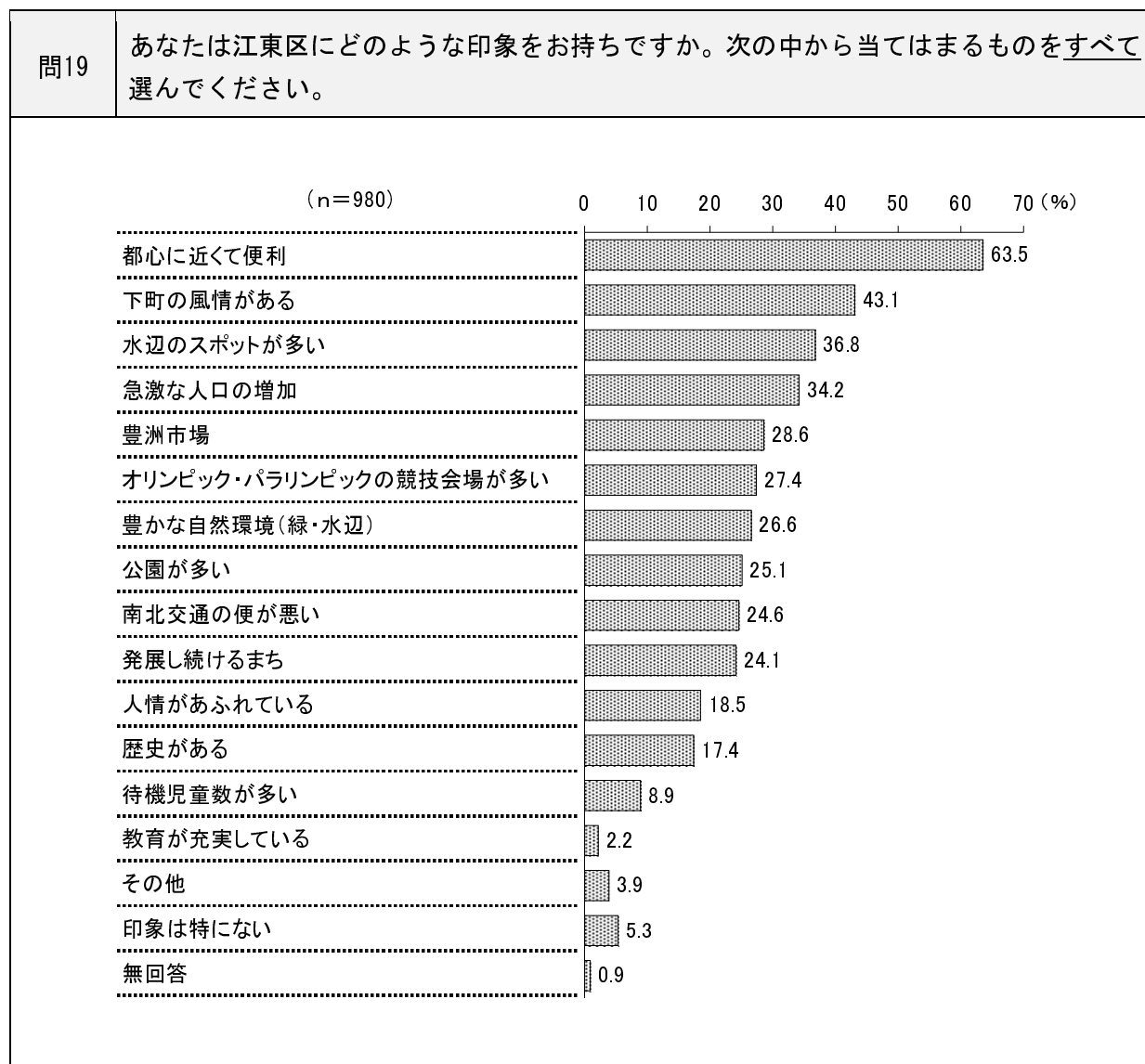
◇「知らない」が8割を超える



○区のブランドコンセプトを知っているか聞いたところ、「知っている」(18.5%)は2割近く、「知らない」(81.0%)が8割を超えている。

(2) 区に持っている印象

◇「都心に近くて便利」が6割を超える

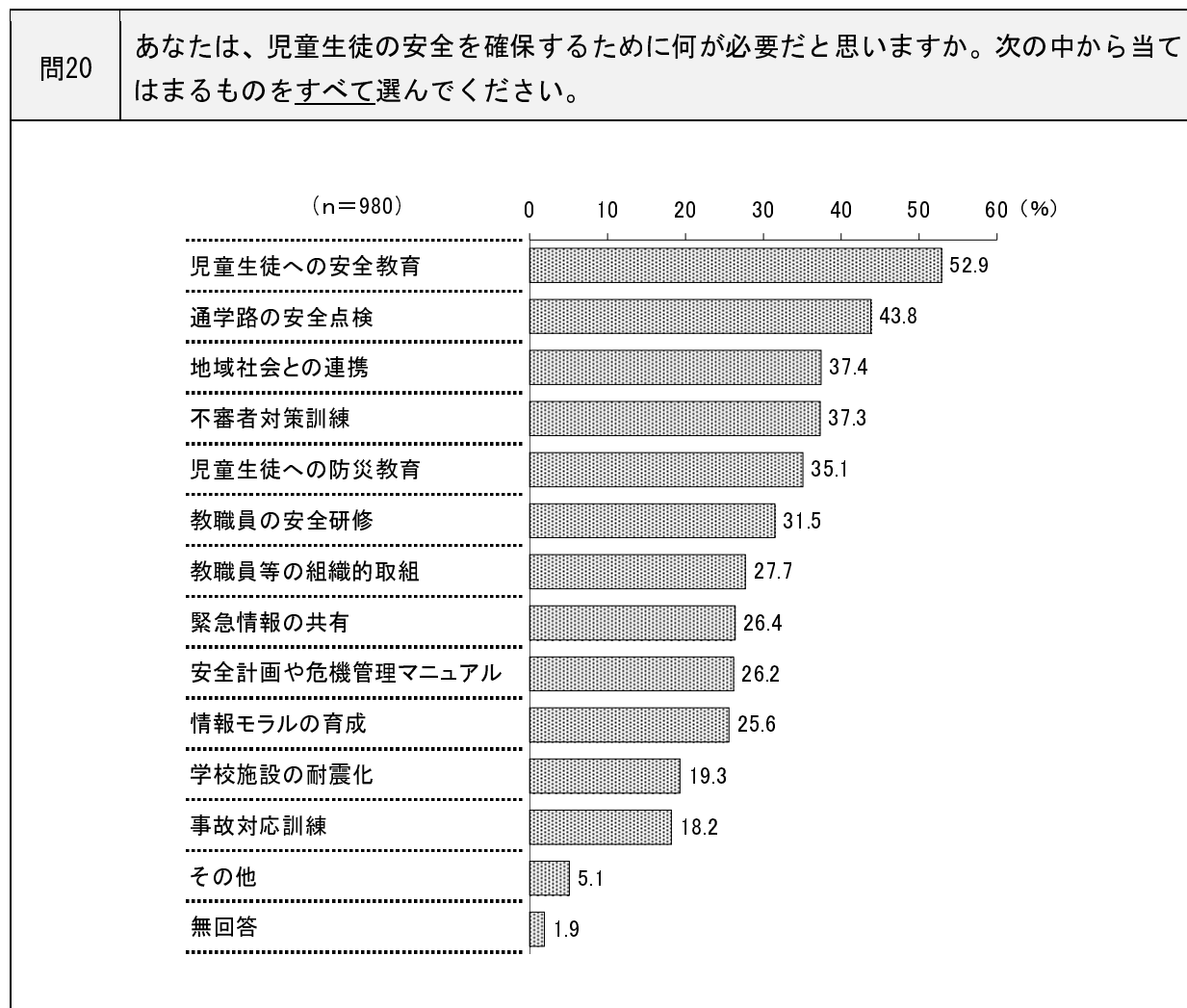


○江東区にどのような印象を持っているか聞いたところ、「都心に近くて便利」(63.5%)が6割を超えて最も多く、次いで「下町の風情がある」(43.1%)、「水辺のスポットが多い」(36.8%)、「急激な人口の増加」(34.2%)と続いている。

11 学校安全

(1) 児童生徒の安全を確保するために必要なこと

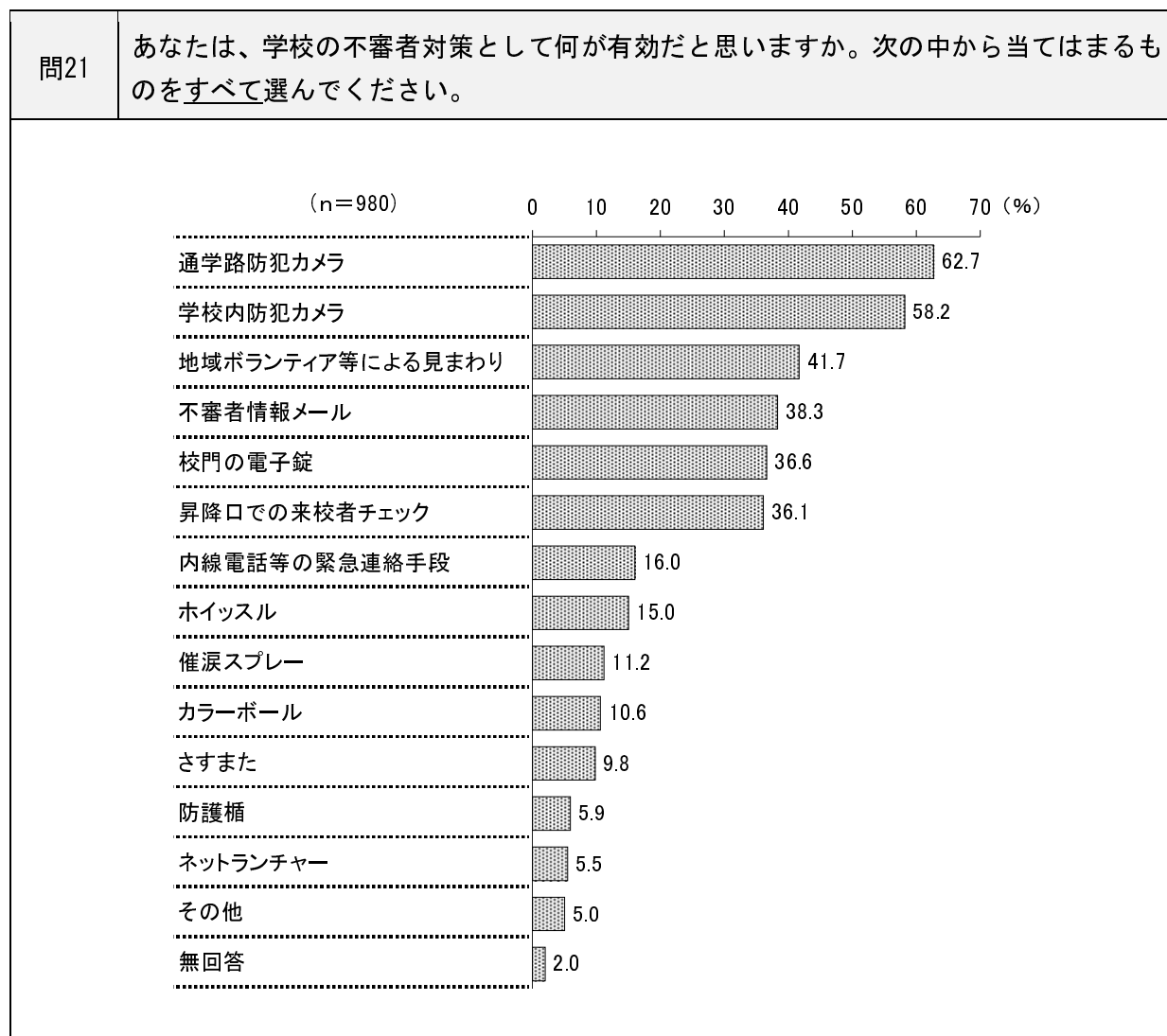
◇「児童生徒への安全教育」が5割を超える



○児童生徒の安全を確保するために何が必要だと思うか聞いたところ、「児童生徒への安全教育」(52.9%)が5割を超えて最も多く、次いで「通学路の安全点検」(43.8%)、「地域社会との連携」(37.4%)、「不審者対策訓練」(37.3%)と続いている。

(2) 学校の不審者対策として有効なもの

◇「通学路防犯カメラ」が6割を超える

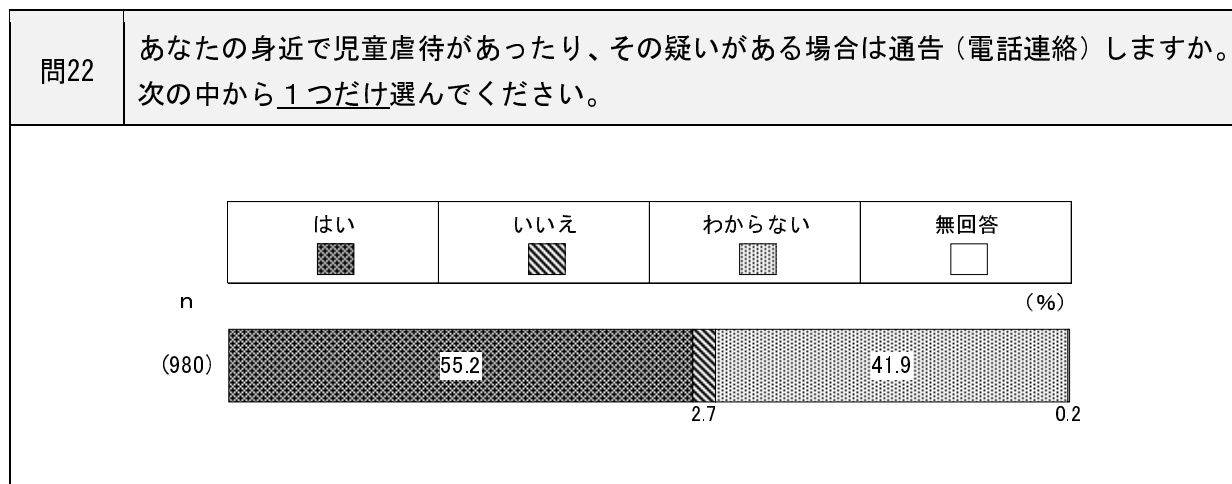


○学校の不審者対策として何が有効だと思うか聞いたところ、「通学路防犯カメラ」(62.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「学校内防犯カメラ」(58.2%)、「地域ボランティア等による見まわり」(41.7%)、「不審者情報メール」(38.3%)と続いている。

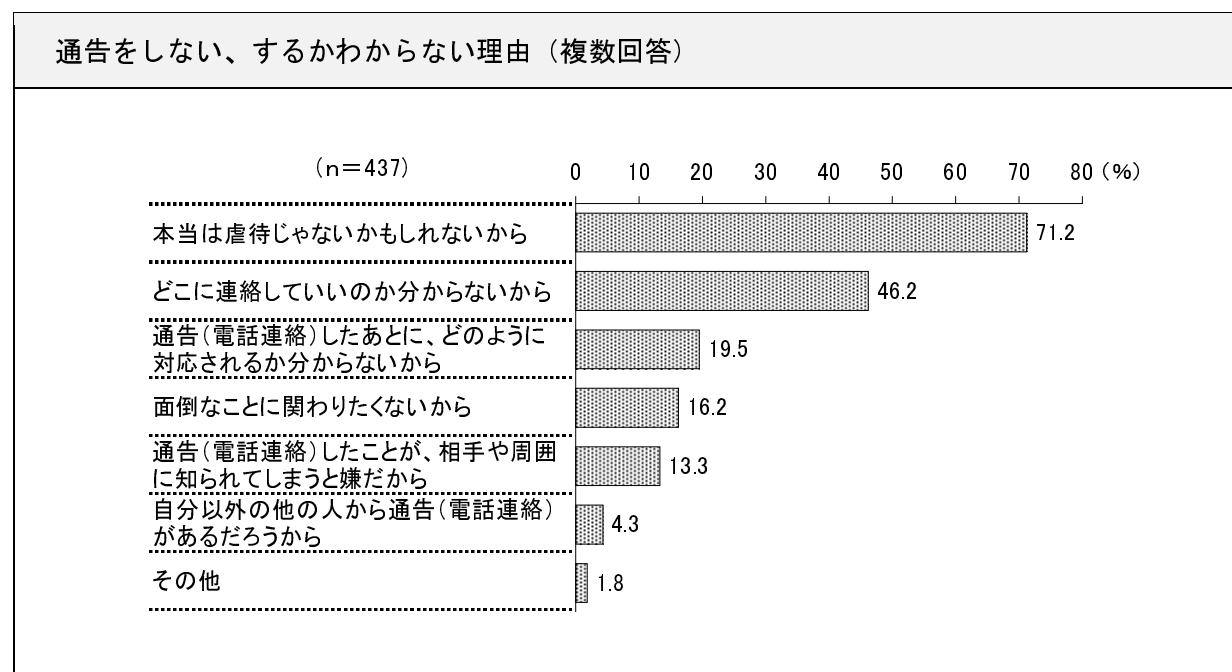
12 児童虐待

(1) 身近で児童虐待があった場合の通告の有無

◇「通告（電話連絡）する」が5割台半ば

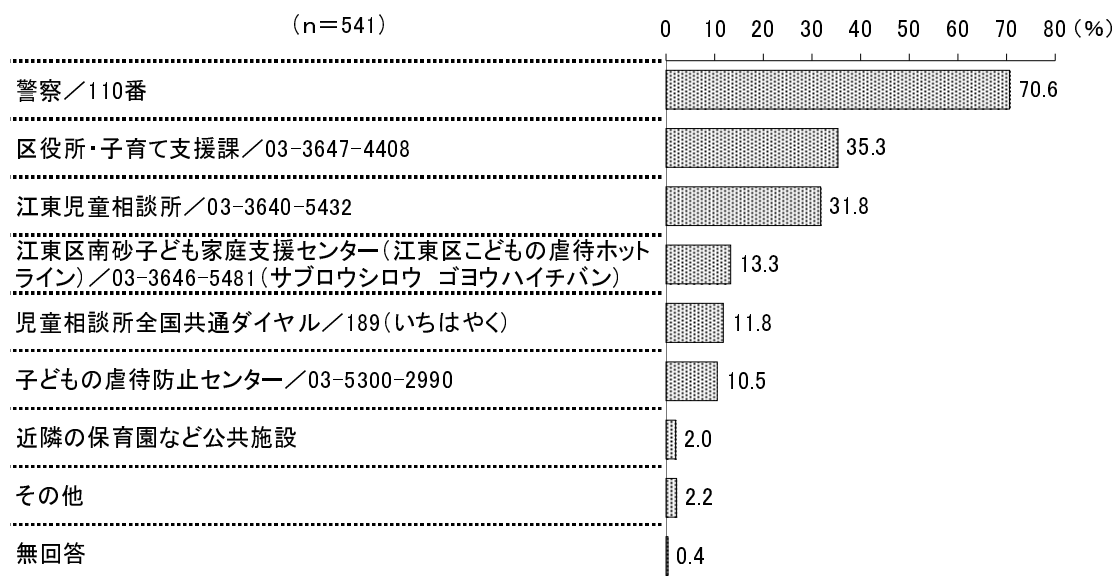


○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合は通告するか聞いたところ、「はい」(55.2%)が5割台半ば、「いいえ」(2.7%)はわずかとなっている。また、「わからない」(41.9%)は4割を超えている。



○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告をしない、または、するかわからないと答えた方(437人)に、その理由を聞いたところ、「本当は虐待じゃないかもしれないから」(71.2%)が7割を超えて最も多く、次いで「どこに連絡していいのかわからないから」(46.2%)、「通告(電話連絡)したあとに、どのように対応されるかわからないから」(19.5%)と続いている。

思いつく通告先（複数回答）

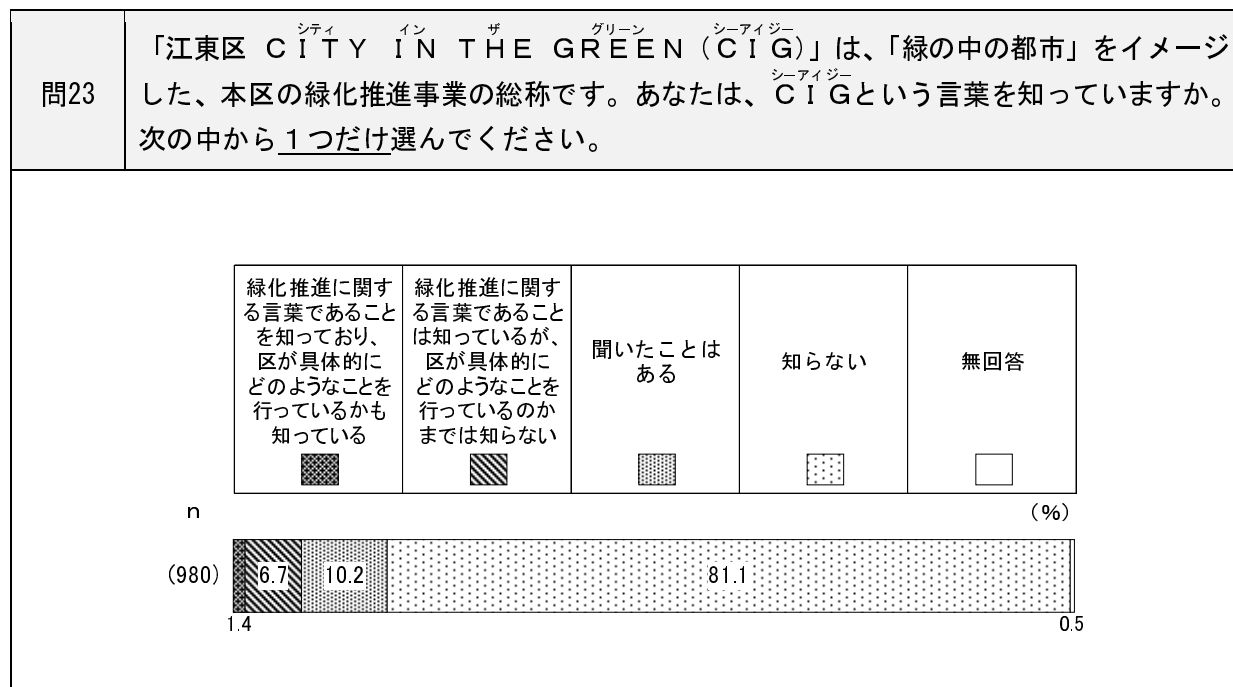


○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告をすると答えた方（541 人）に、思いつく通告先を聞いたところ、「警察／110 番」（70.6％）がほぼ7割で最も多く、次いで「区役所・子育て支援課／03-3647-4408」（35.3％）、「江東児童相談所／03-3640-5432」（31.8％）と続いている。

13 緑化推進

(1) 「C I G」の認知状況

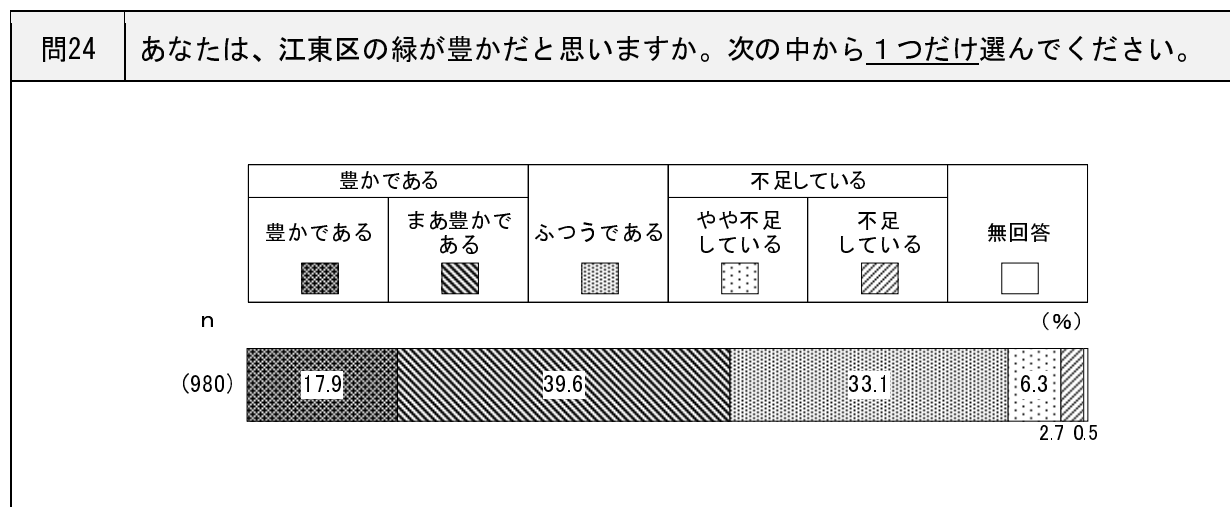
◇「知らない」が8割を超える



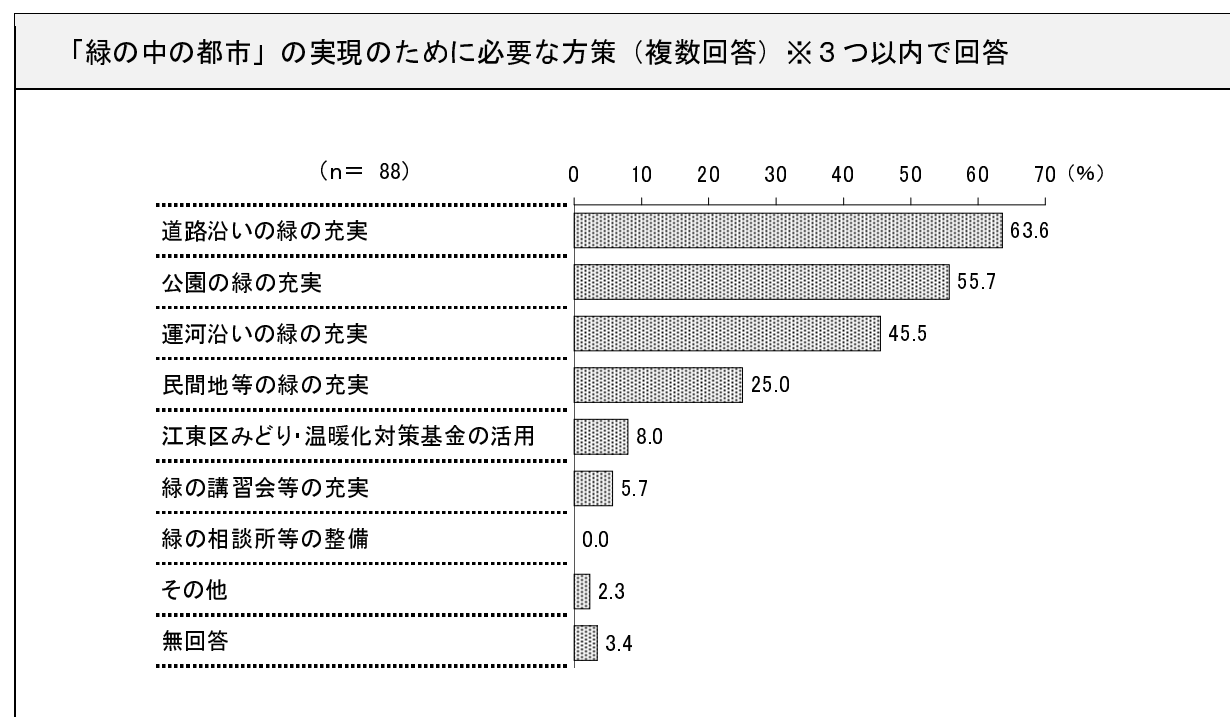
○「C I G」という言葉を知っているか聞いたところ、「緑化推進に関する言葉であることを知っており、区が具体的にどのようなことを行っているかも知っている」（1.4%）、「緑化推進に関する言葉であることは知っているが、区が具体的にどのようなことを行っているのかまでは知らない」（6.7%）は1割未満、「聞いたことはある」（10.2%）は1割となっている。一方、「知らない」（81.1%）は8割を超えている。

(2) 江東区の緑が豊かだと思うか

◇《豊かである》は6割近く



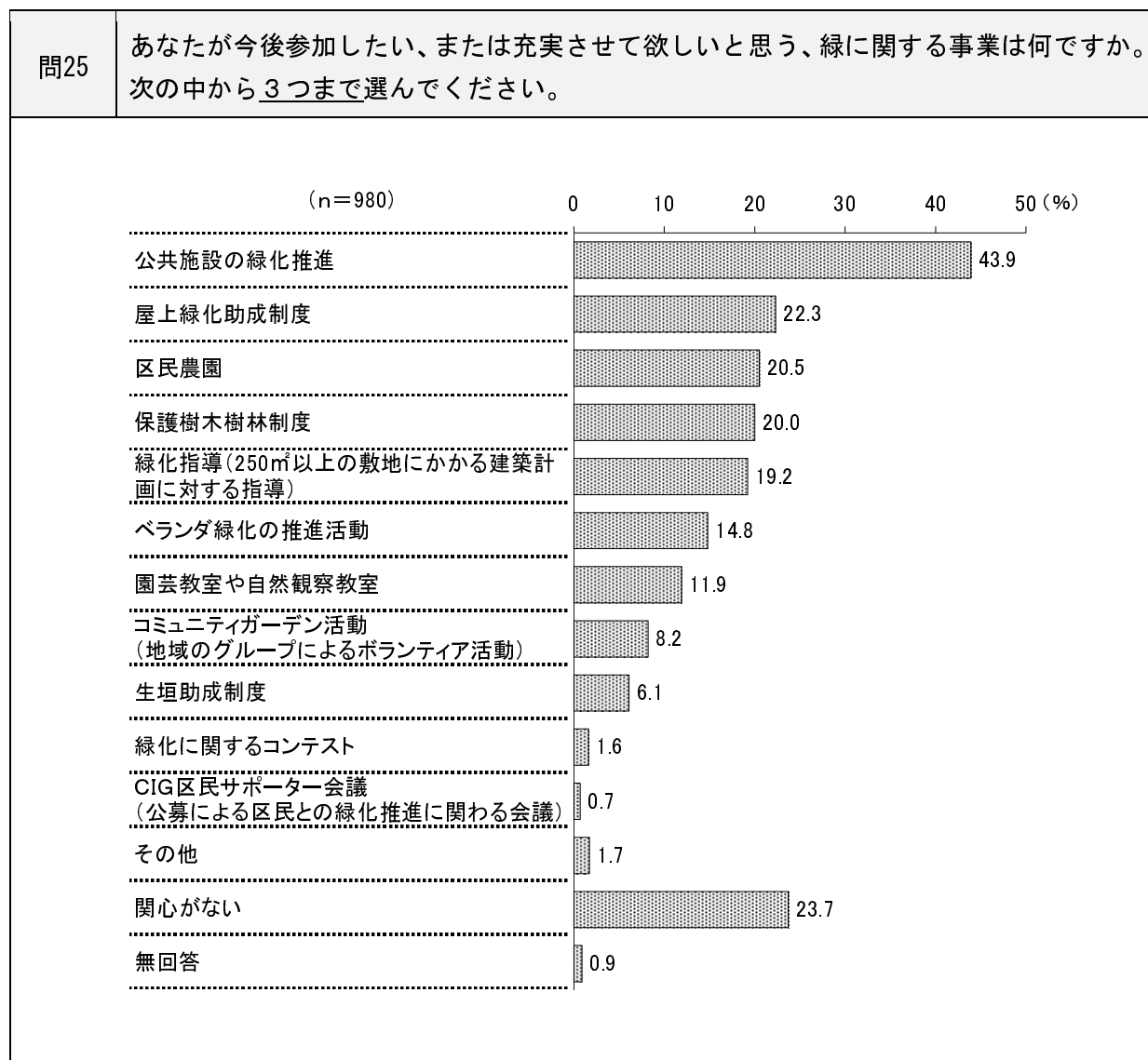
○江東区の緑が豊かだと思うか聞いたところ、「豊かである」(17.9%)と「まあ豊かである」(39.6%)の2つを合わせた《豊かである》(57.5%)は6割近くとなっている。一方、「やや不足している」(6.3%)と「不足している」(2.7%)の2つを合わせた《不足している》(9.0%)は1割未満となっている。



○江東区の緑が、「やや不足している」か「不足している」と答えた方(88人)に、「緑の中の都市」の実現のために必要な方策を聞いたところ、「道路沿いの緑の充実」(63.6%)が6割を超えて最も多く、次いで「公園の緑の充実」(55.7%)と続いている。

(3) 今後参加したい、または充実させて欲しいと思う緑に関する事業

◇「公共施設の緑化推進」が4割を超える

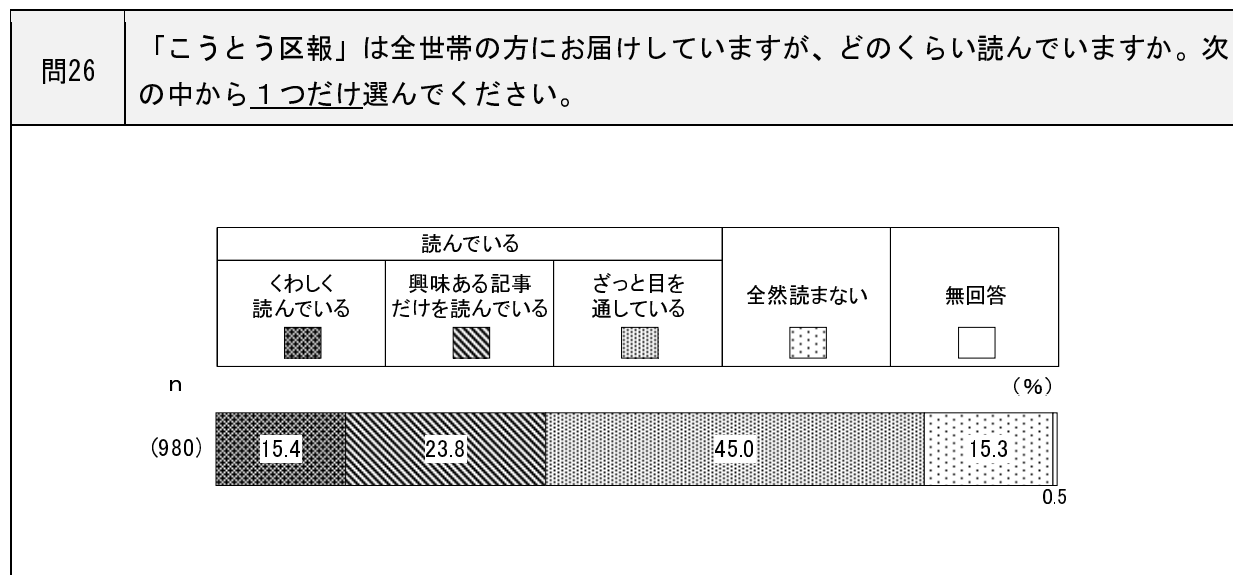


○今後参加したい、または充実させて欲しいと思う緑に関する事業を聞いたところ、「公共施設の緑化推進」(43.9%)が4割を超えて最も多く、次いで「屋上緑化助成制度」(22.3%)、「区民農園」(20.5%)と続いている。

14 広 報

(1) 「こうとう区報」の閲読状況

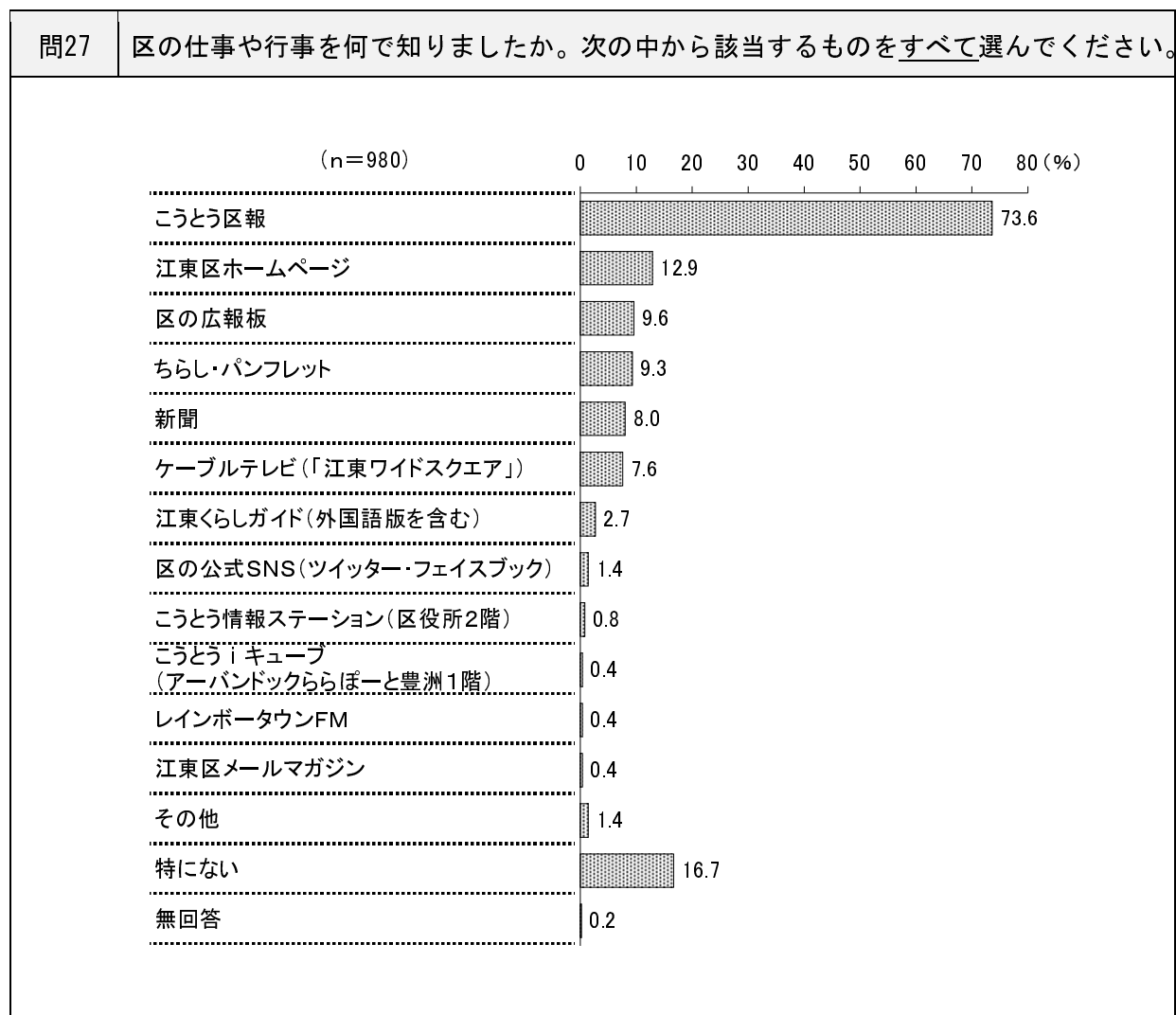
◇《読んでいる》は8割台半ば



○「こうとう区報」をどのくらい読んでいるか聞いたところ、「くわしく読んでいる」(15.4%)、「興味ある記事だけを読んでいる」(23.8%)、「ざっと目を通している」(45.0%)の3つを合わせた《読んでいる》(84.2%)が8割台半ばとなっている。

(2) 区の仕事や行事の認知媒体

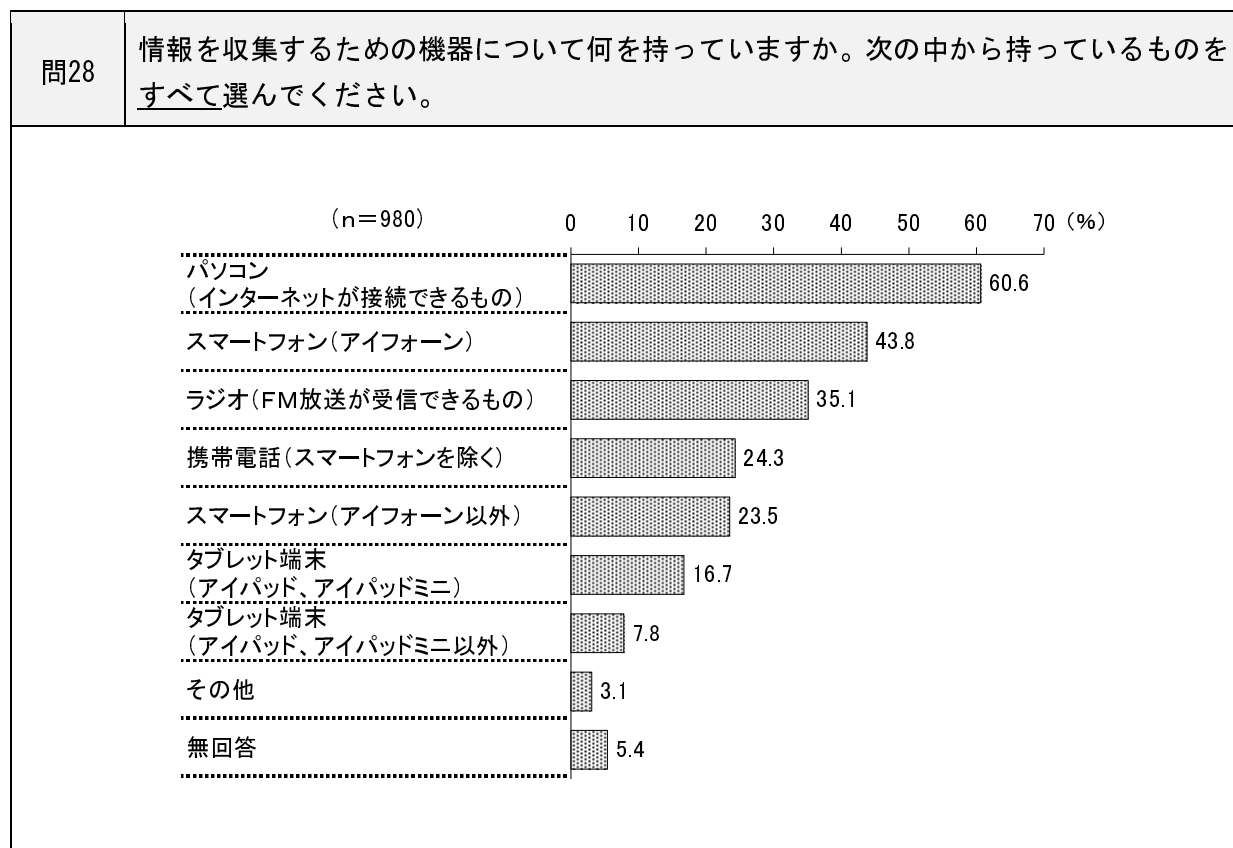
◇「こうとう区報」が7割を超える



○区の仕事や行事の情報を何から得ているか聞いたところ、「こうとう区報」(73.6%)が7割を超えて最も多く、次いで「江東区ホームページ」(12.9%)、「区の広報板」(9.6%)、「ちらし・パンフレット」(9.3%)、「新聞」(8.0%)と続いている。

(3) 情報を収集するための機器について持っているもの

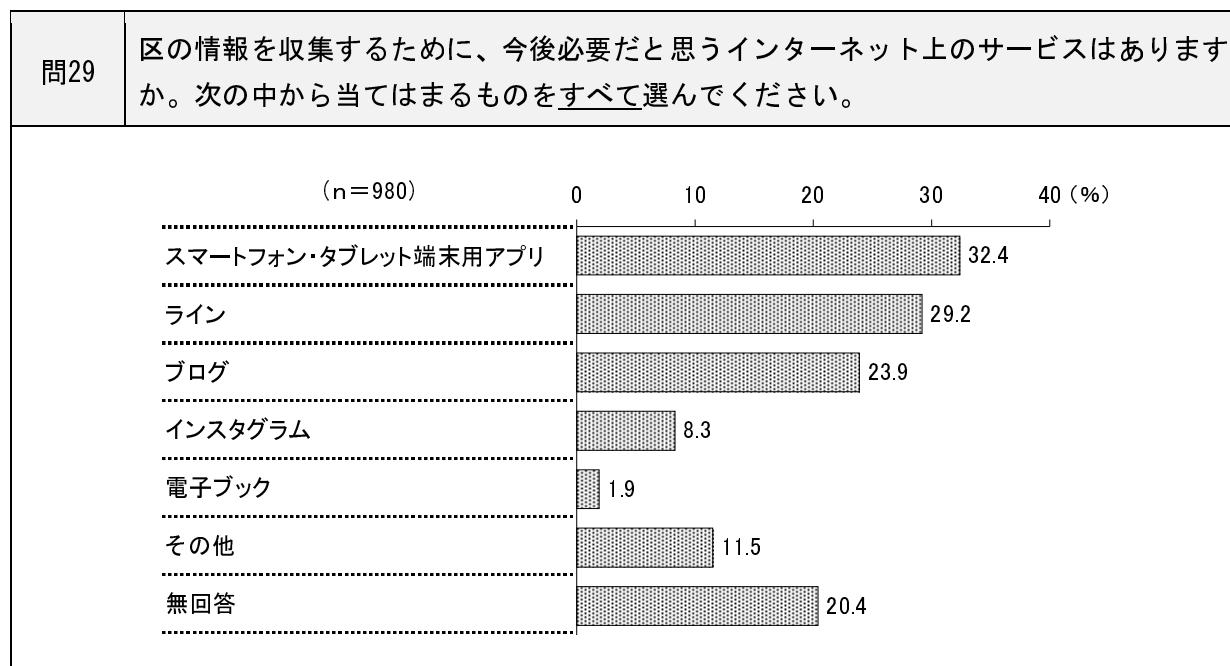
◇「パソコン（インターネットが接続できるもの）」がほぼ6割



○情報を収集するための機器について何を持っているか聞いたところ、「パソコン（インターネットが接続できるもの）」（60.6％）がほぼ6割で最も多く、次いで「スマートフォン（アイフォン）」（43.8％）、「ラジオ（FM放送が受信できるもの）」（35.1％）と続いている。

(4) 区の情報を収集するために必要なインターネット上のサービス

◇「スマートフォン・タブレット端末用アプリ」が3割を超える

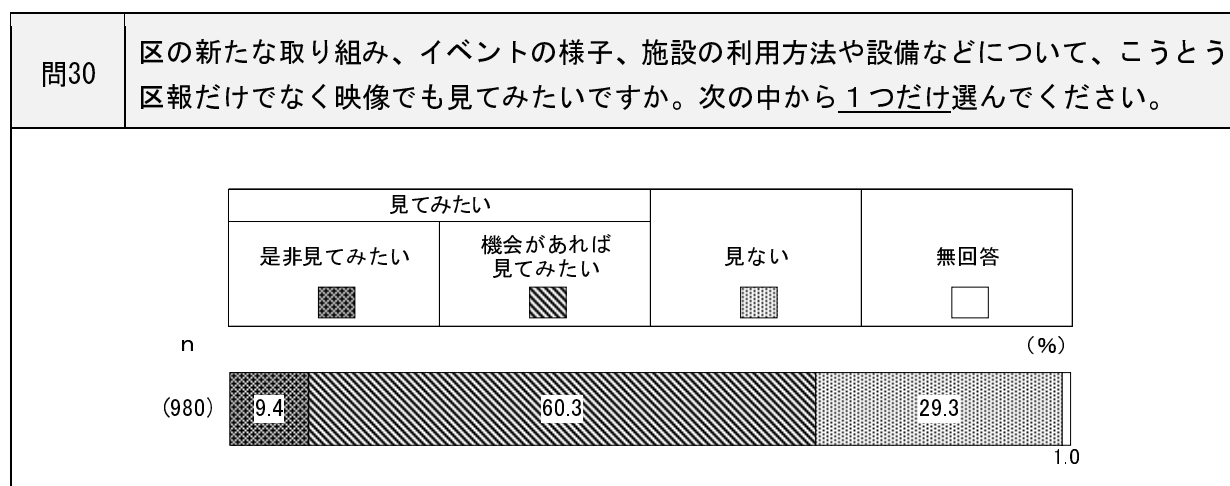


○区の情報を収集するために必要なインターネット上のサービスを聞いたところ、「スマートフォン・タブレット端末用アプリ」(32.4%)が3割を超えて最も多く、次いで「ライン」(29.2%)、「ブログ」(23.9%)、「インスタグラム」(8.3%)と続いている。

15 江東区ワイドスクエア

(1) 区政情報や区内のイベント・施設情報を動画や映像で見たいか

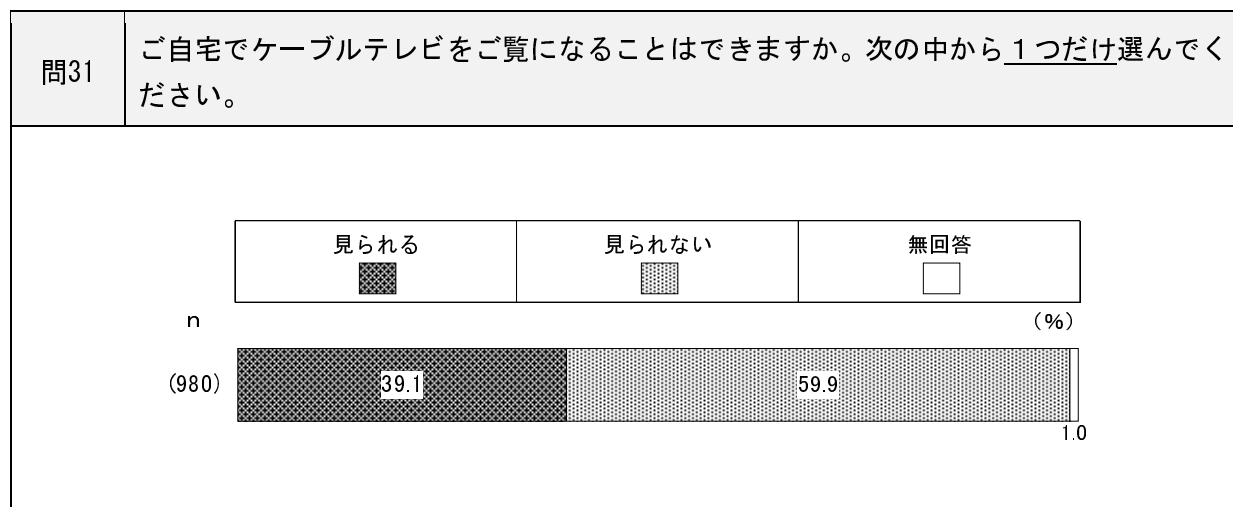
◇《見てみたい》は7割



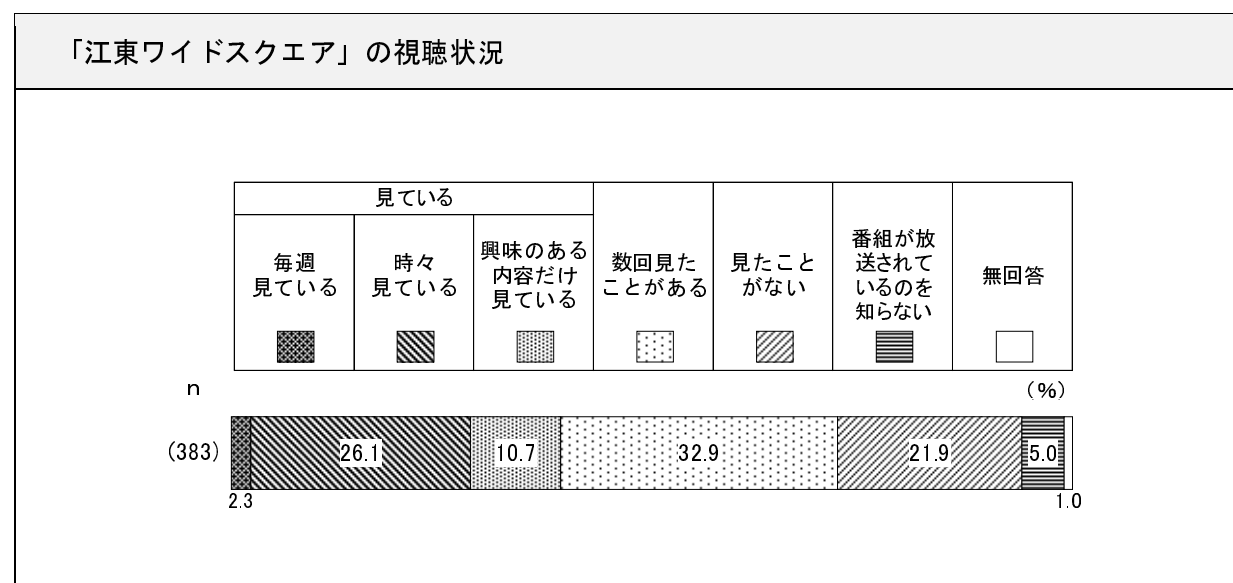
○区政情報や区内のイベント・施設情報を動画や映像で見たいか聞いたところ、「是非見てみたい」(9.4%)と「機会があれば見てみたい」(60.3%)の2つを合わせた《見てみたい》(69.7%)が7割となっている。一方、「見ない」(29.3%)はほぼ3割となっている。

(2) ケーブルテレビの視聴の可否

◇「見られる」がほぼ4割



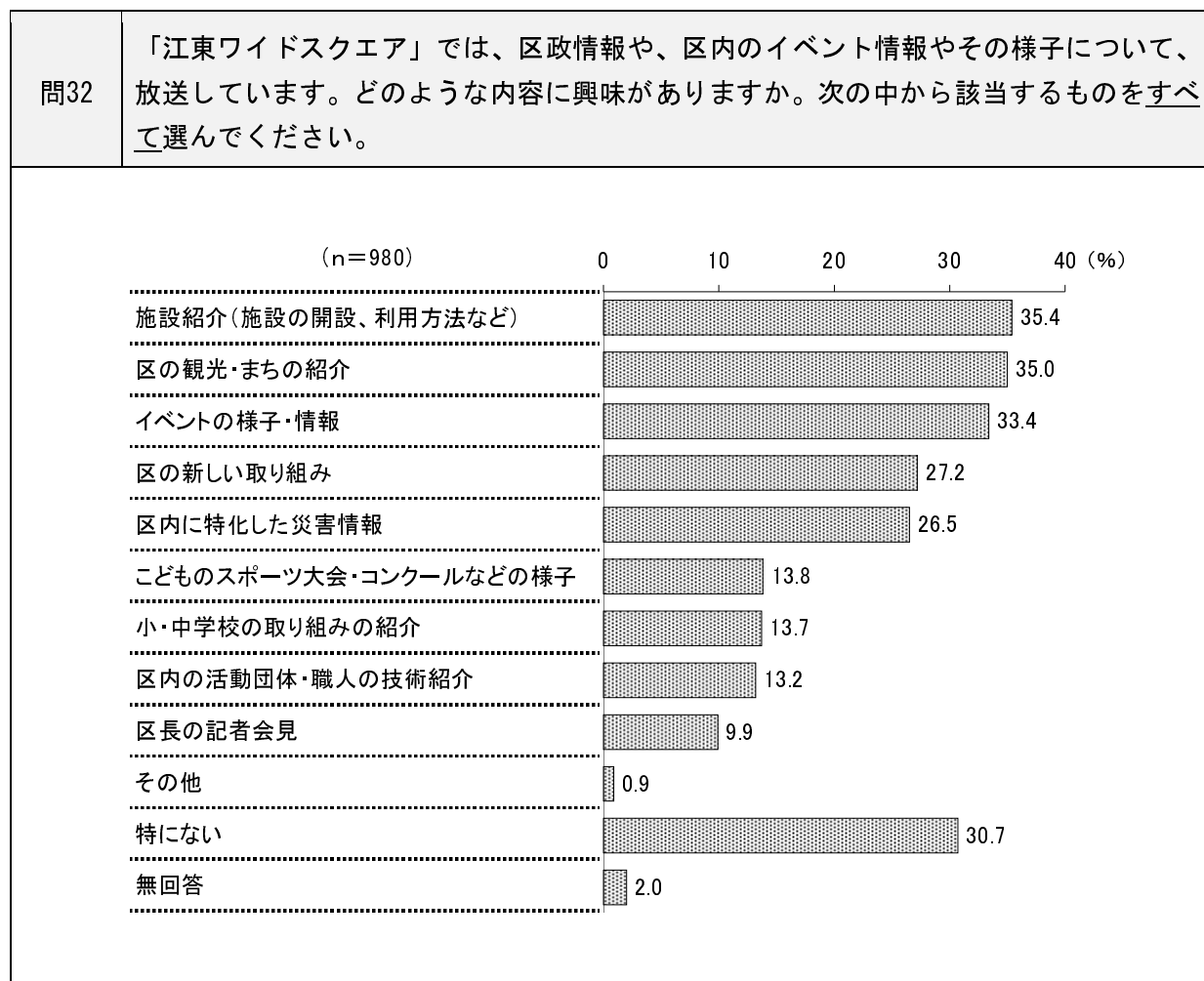
○自宅でケーブルテレビを見ることができるか聞いたところ、「見られる」(39.1%)はほぼ4割、「見られない」(59.9%)が6割となっている。



○「江東ワイドスクエア」をどれくらい視聴しているか聞いたところ、「毎週見ている」(2.3%)、「時々見ている」(26.1%)、「興味のある内容だけ見ている」(10.7%)の3つを合わせた「見ている」(39.1%)がほぼ4割となっている。

(3) 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容

◇「施設紹介（施設の開設、利用方法など）」と「区の観光・まちの紹介」が３割台半ば

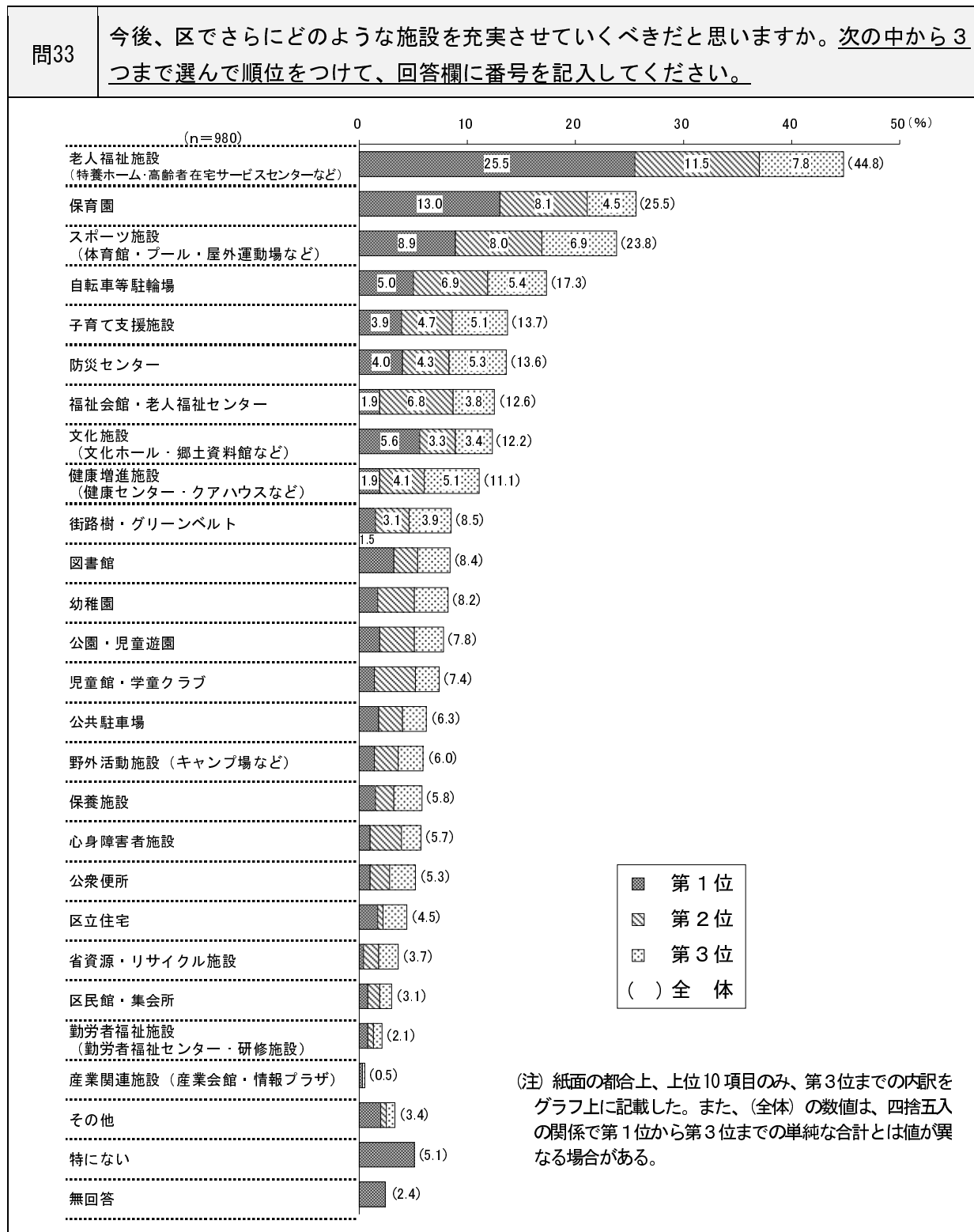


○「江東ワイドスクエア」で興味のある内容を聞いたところ、「施設紹介（施設の開設、利用方法など）」（35.4％）と「区の観光・まちの紹介」（35.0％）が３割台半ばで多く、次いで「イベントの様子・情報」（33.4％）、「区の新しい取り組み」（27.2％）と続いている。一方、「特にない」（30.7％）はほぼ３割となっている。

16 充実すべき施設

(1) 充実すべき施設

◇「老人福祉施設（特養ホーム・高齢者在宅サービスセンターなど）」が4割台半ば

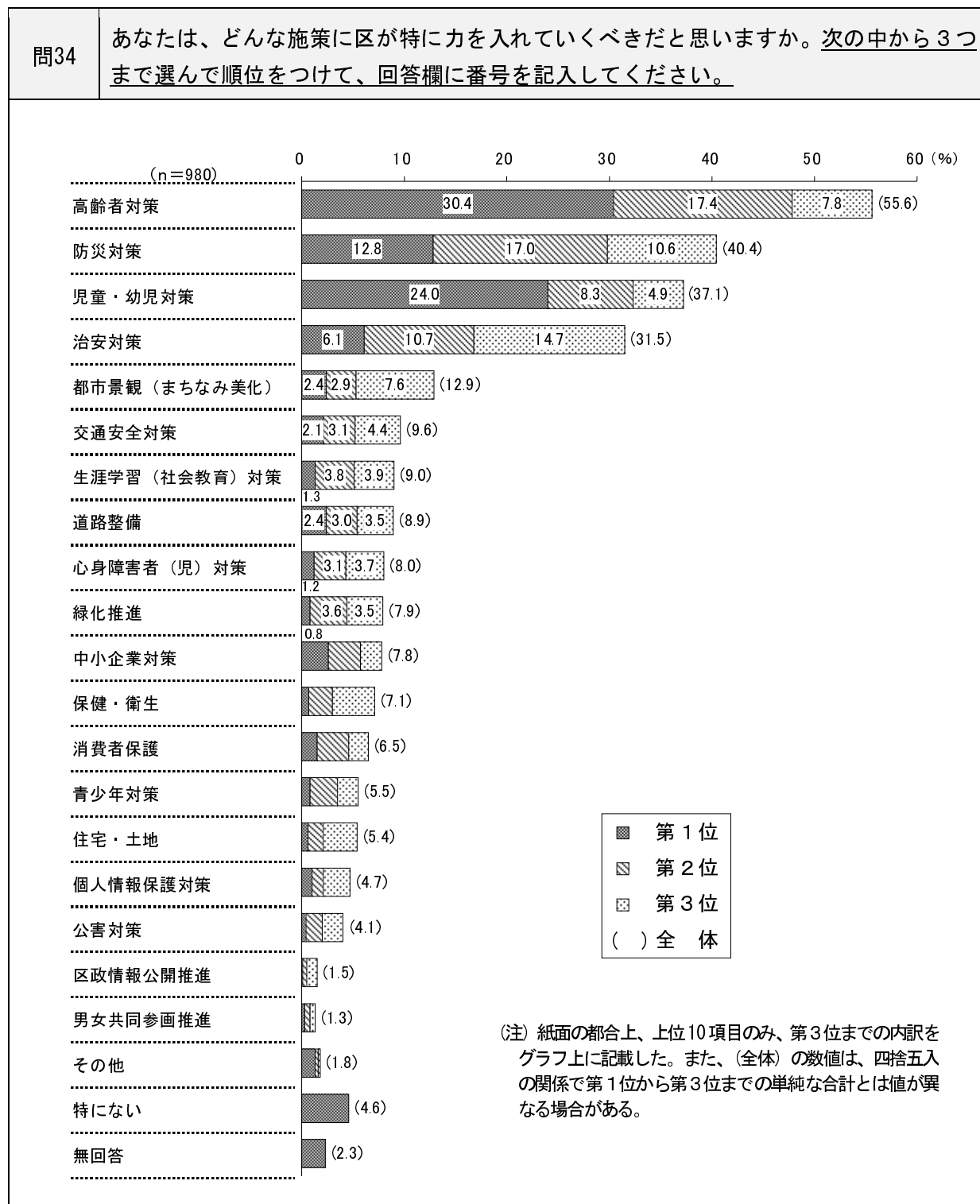


○どのような施設を充実するべきだと思うかを、第1位から第3位までを累計した《全体》でみると、「老人福祉施設（特養ホーム・高齢者在宅サービスセンターなど）」(44.8%)が4割台半ばで最も多くなっている。

17 施策への要望

(1) 力を入れてほしい施策

◇「高齢者対策」が5割台半ば



○区に対して特に力を入れてほしいものを、第1位から第3位までを累計した《全体》でみると、「高齢者対策」(55.6%)が5割台半ばで最も多く、次いで「防災対策」(40.4%)、「児童・幼児対策」(37.1%)、「治安対策」(31.5%)と続いている。

